

# 第22回 国土交通中部地方有識者懇談会

平成26年3月6日(木) 10:00~11:30  
KKRホテル名古屋 3階 芙蓉の間

## 議 事 次 第

### I. 新まんなかビジョン

#### 1. 中部ブロックの目指すべき将来の姿

資料1

参考資料1

#### 2. リニア中央新幹線開業を見据えた地域づくり

資料2

参考資料2

### II. 新まんなかビジョンを取り巻く関連計画等 (情報提供)

参考資料3

### III. その他

#### 【配付資料】

- ・ 議事次第、配席図、出席者名簿
- ・ 資料1 中部ブロックの目指すべき将来の姿 (素案)
- ・ 資料2 リニア中央新幹線開業を見据えた地域づくり (今回議論用資料)
- ・ 参考資料1 前回まんなか懇談会のご意見
- ・ 参考資料2 リニア中央新幹線の開業に伴う効果等 (前回資料より抜粋)
- ・ 参考資料3 新まんなかビジョンを取り巻く関連計画等

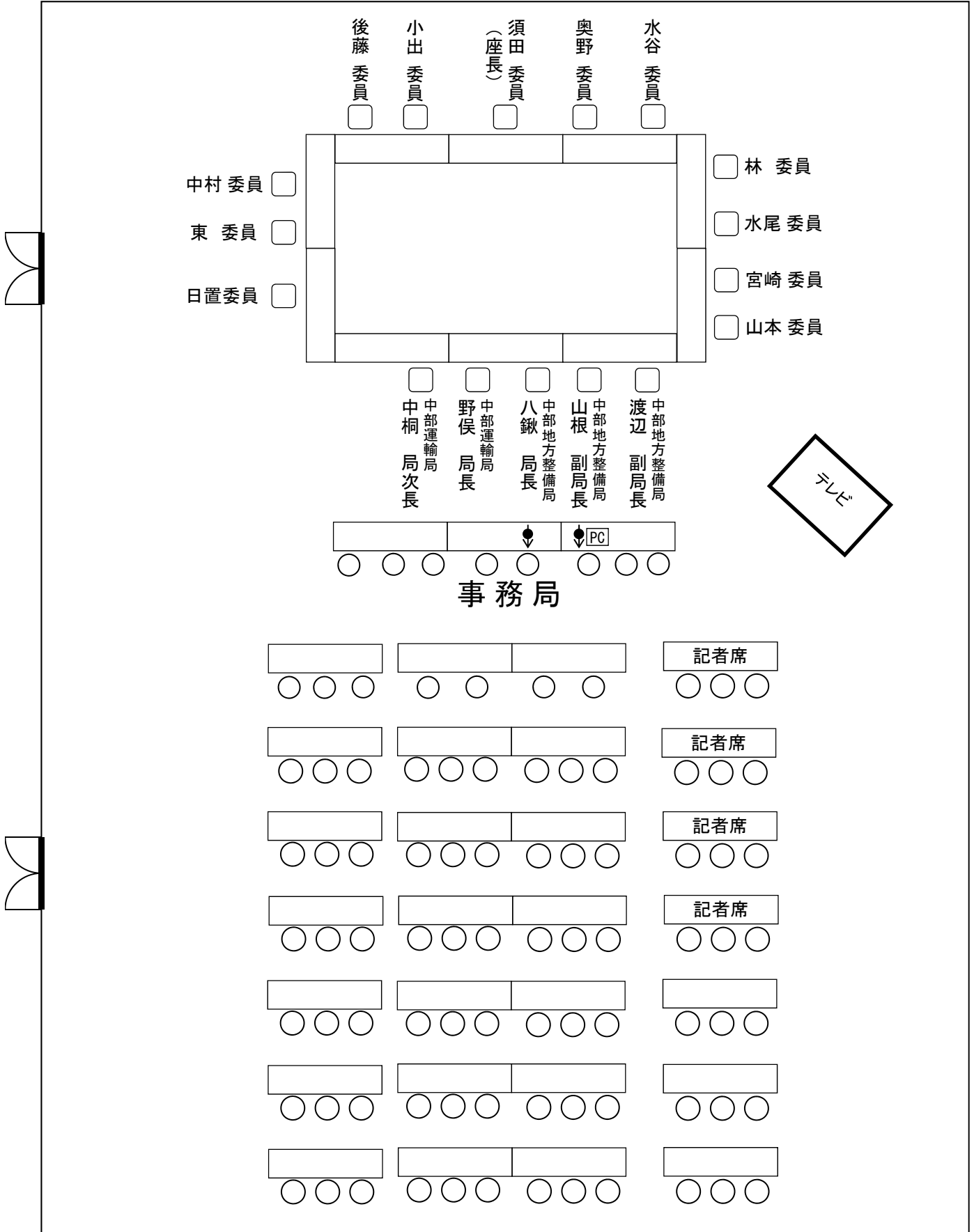
# 第22回 国土交通中部地方有識者懇談会

## 【まんなか懇談会】

### — 配席図 —

日時：平成26年3月6日 10:00～11:30

場所：KKRホテル名古屋 3F芙蓉の間



## 第22回 国土交通中部地方有識者懇談会 出席者

平成26年3月6日(木)10:00~11:30  
KKRホテル名古屋 3階 芙蓉の間

### 【懇談会委員】

(50音順、敬称略、◎：座長)

奥野 信宏 中京大学 理事 総合政策学部教授

河上 敢二 熊野市 市長 (欠席)

小出 宣昭 中日新聞社 代表取締役社長

後藤 康雄 静岡県商工会議所連合会 会長  
はごろもフーズ(株) 代表取締役会長

◎ 須田 寛 東海旅客鉄道(株) 相談役

中村 幸昭 (株)鳥羽水族館 名誉館長

林 良嗣 名古屋大学 環境学研究科交通・  
都市国際研究センター長・教授

日置 敏明 郡上市 市長

東 恵子 東海大学 海洋学部環境社会学科教授

水尾 衣里 名城大学 人間学部人間学科教授

水谷 研治 東京福祉大学 大学院教授 中京大学 名誉教授

宮崎 直樹 トヨタ自動車(株) 総務・人事本部本部長 専務役員

山本 貴之 (株)日本政策投資銀行 東海支店長

### 【主催者】

(中部地方整備局)

八鍬 隆 局長  
山根 尚之 副局長  
渡辺 秀樹 副局長

(中部運輸局)

野俣 光孝 局長  
中桐 宏樹 局次長

## 中部ブロックの目指すべき将来の姿(素案)

- ・中部ブロックの目指すべき将来の姿
- ・5つの目指すべき地域づくりの方向
- ・9つの各地域における将来イメージ

# 基本理念 ～中部地方を取り巻く情勢・課題

## 1. 中部地方を取り巻く情勢

- ◆人口減少・少子高齢化
- ◆世界経済・交流のグローバル化
- ◆情報通信技術の発展
- ◆価値観の多様化
- ◆地域コミュニティの衰退・地域間格差の拡大

## 2. 中部地方の特性

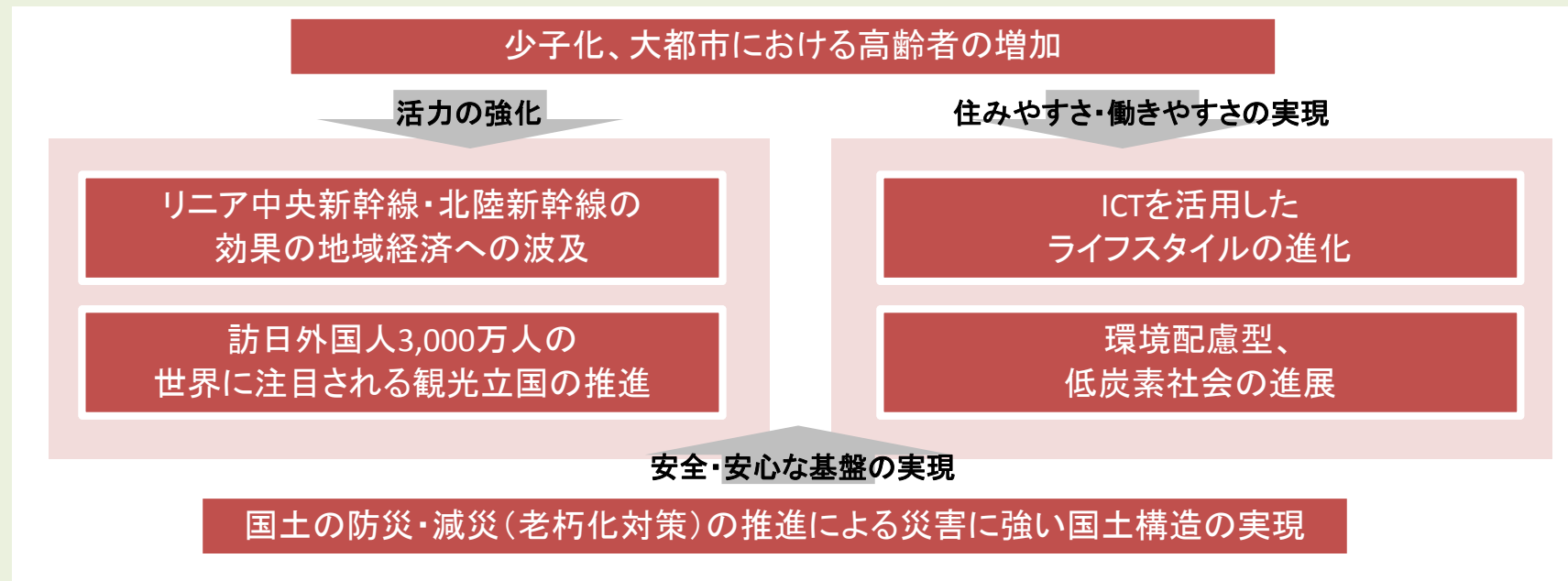
- ◆日本のまんなか
- ◆卓越した産業集積
- ◆自然災害への脆弱性
- ◆豊富な自然や文化・歴史・産業資源
- ◆多極分散型地域構造
- ◆自動車への高い依存度

## 3. 中部地方の今後取り組むべき課題

- 巨大地震の発生や集中豪雨、台風による水害等の自然災害への対応
- 日本の大動脈を担う中部地方ゆえに、大規模災害による社会経済活動の停滞懸念への対応
- 活発な経済活動による様々な環境問題への対応
- 渇水による水不足や、エネルギー危機への対応
- 地域の活力衰退と地域間格差の拡大への対応
- 社会の成熟化に伴うライフスタイルニーズの多様化への対応
- 海外企業受入による国際化への対応
- 訪日外国人旅行者の受入環境整備への対応

# 基本理念 ～求められる将来像と政策体系(1/2)

## 1. 概ね20年後に向けて念頭に置くべき社会情勢の変化



## 2. 中部地方の責務と役割

- ◆日本のまんなかとして、災害に最も強い地域の構築
- ◆ものづくり産業を基軸とした我が国経済の牽引
- ◆まんなか地域としての国内外の交流・連携機能の強化
- ◆世界有数の環境先進地域への挑戦
- ◆ゆとりと利便性のバランスのとれた最も暮らしやすい地域の形成

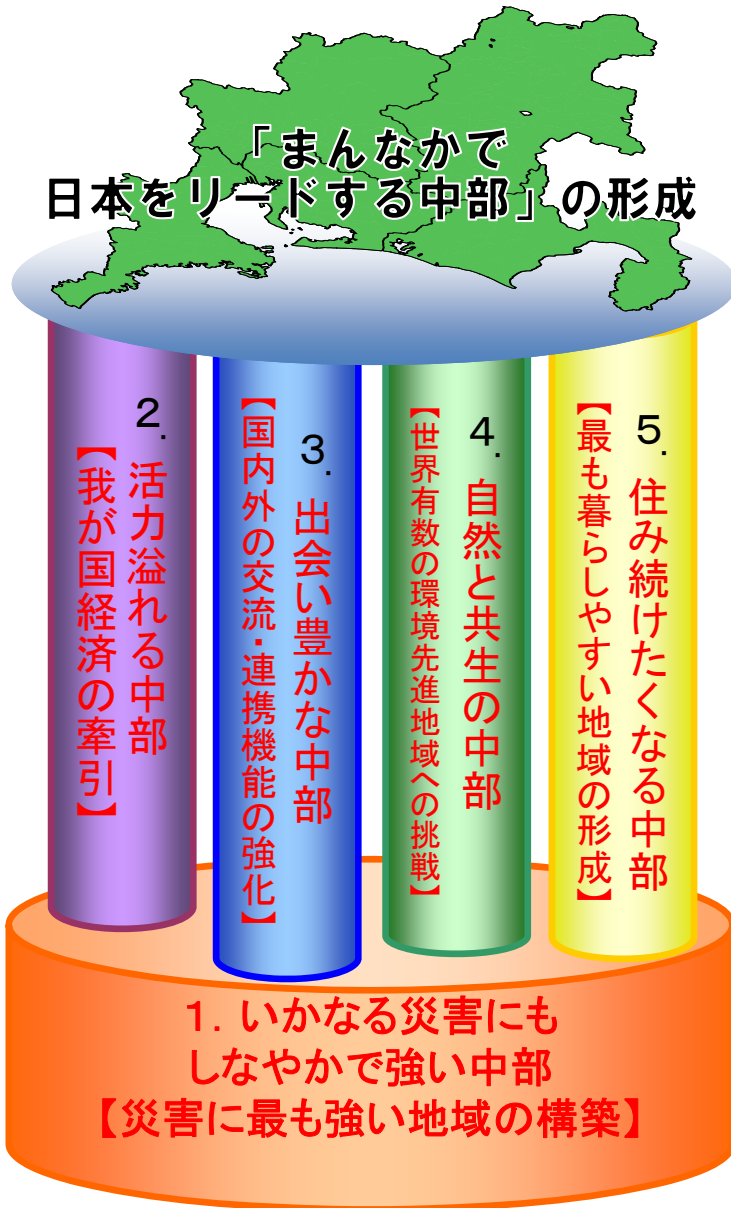
## 3. 10～20年後を見据えた中部地方の将来像

まんなかで日本をリードする中部

# 基本理念 ～求められる将来像と政策体系(2/2)

## 4. 10～20年後を見据えた中部地方の政策体系

### 5つの目指すべき地域づくりの方向



### 25の具体的な目標

#### 1. いかなる災害にもしなやかで強い中部【災害に最も強い地域の構築】

- 大規模地震や津波にも強い地域を構築
- 洪水・土砂災害・高潮、雪害などや渇水に強い地域を構築
- 様々な災害でも寸断されることのない交通体系等を構築
- 災害・事故に係る情報提供や災害対応体制を強化
- 社会資本の老朽化対策の推進

#### 2. 活力溢れる中部【我が国経済の牽引】

- 港湾・空港の機能を強化し、世界的に優れた国際物流ネットワークを形成
- 国内交通ネットワークを強化し、スムーズな移動を可能に
- 陸・海・空が一体となった高度な物流システムを構築
- 水の安定確保などものづくりに不可欠な施策を推進

#### 3. 出会い豊かな中部【国内外の交流・連携機能の強化】

- 人・モノ・情報の交流を拡大・活発化
- 社会基盤整備で都市機能を高度化し、各地域の自立と交流・連携を促す
- 中山間地や農山漁村の地域力を向上し、各地域の自立と交流・連携を促す
- 独自の地域資源を活用し、観光など地域の魅力を向上

#### 4. 自然と共生の中部【世界有数の環境先進地域への挑戦】

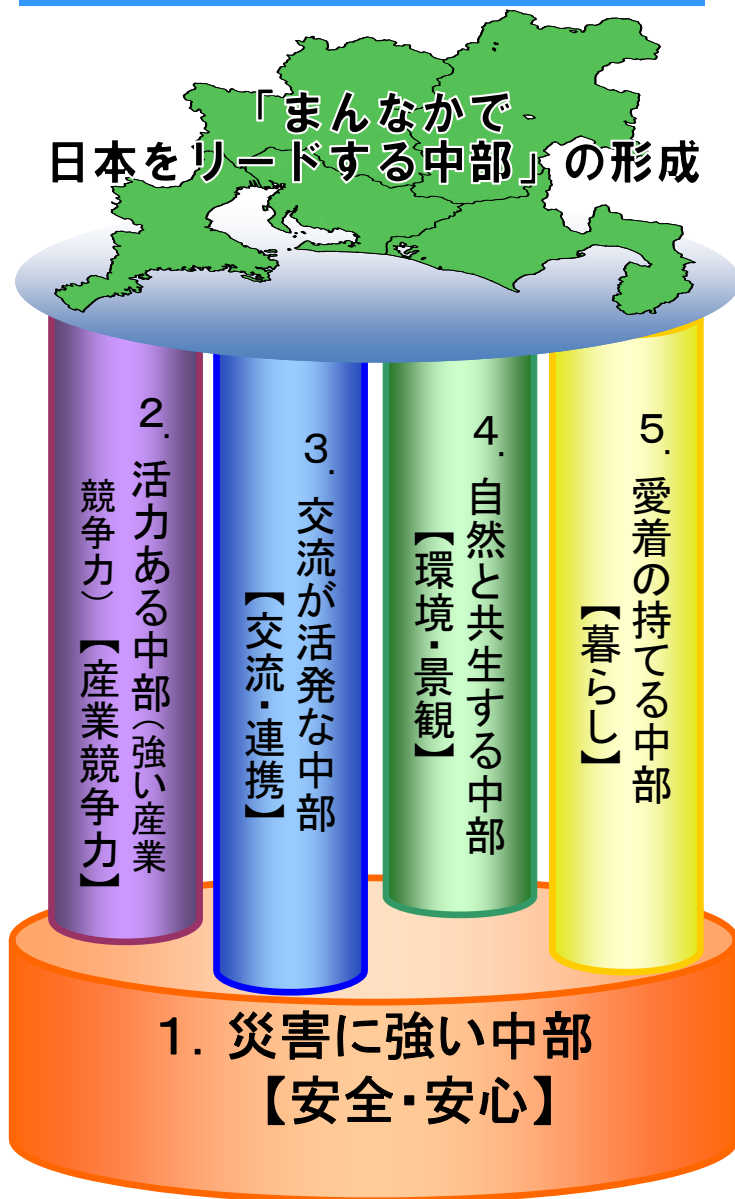
- 地球温暖化を抑制するため温室効果ガスの削減を推進
- 大気環境の改善やヒートアイランドの抑制を支援
- 騒音・振動などの生活環境を改善
- ごみの発生抑制・循環型社会の構築を支援
- 美しい自然環境を保全・創出し多様な生態系などを維持・再生
- 健全な水循環系を構築し、持続可能な環境を創出
- 独自の地域資源を保全・再生・活用した魅力ある景観を創出

#### 5. 住み続けたいくなる中部【最も暮らしやすい地域の形成】

- 子供がのびのびと安全に成長できる社会の実現を目指す
- ユビキタスネットワーク社会に対応した情報提供を進める
- 快適で安全に暮らせる生活圏の実現を目指す
- 安全で住みやすい居住環境の実現を目指す
- 誇りや愛着を持てる協働・参加型の地域づくりを支援

## 中部ブロックの目指すべき将来の姿(案)

### 5つの目指すべき地域づくりの方向



### 25の具体的な目標

#### 1. 災害に強い中部【安全安心】

- 大規模地震や津波にも強い地域を構築
- 洪水・土砂災害・高潮、雪害などや渇水に強い地域を構築
- 様々な災害でも寸断されることのない交通体系等を構築
- 災害・事故に係る情報提供や災害対応体制を強化
- 既存の社会資本ストック機能を持続

#### 2. 活力ある中部(強い産業競争力)【産業競争力】

- 港湾・空港の機能を強化し、世界的に優れた国際物流ネットワークを形成
- 国内交通ネットワークを強化し、スムーズな移動を可能に
- 陸・海・空が一体となった高度な物流システムを構築
- ものづくりに不可欠な水の安定確保を図る

#### 3. 交流が活発な中部【交流・連携】

- 人・モノ・情報の交流を拡大・活発化
- 社会基盤整備で都市機能を高度化し、各地域の自立を促す
- 中山間地や農山漁村の地域力を向上し、各地域の自立を促す
- 独自の地域資源を活用し、観光など地域の魅力を向上

#### 4. 自然と共生する中部【環境・景観】

- 地球温暖化を抑制するため温室効果ガスの削減を推進
- 大気環境の改善やヒートアイランドの抑制を支援
- 騒音・振動などの生活環境を改善
- ごみの発生抑制・循環型社会の構築を支援
- 美しい自然環境を保全・創出し多様な生態系などを維持・再生
- 健全な水循環系を構築し、持続可能な環境を創出
- 独自の地域資源を保全・再生・活用した魅力ある景観を創出

#### 5. 愛着の持てる中部【暮らし】

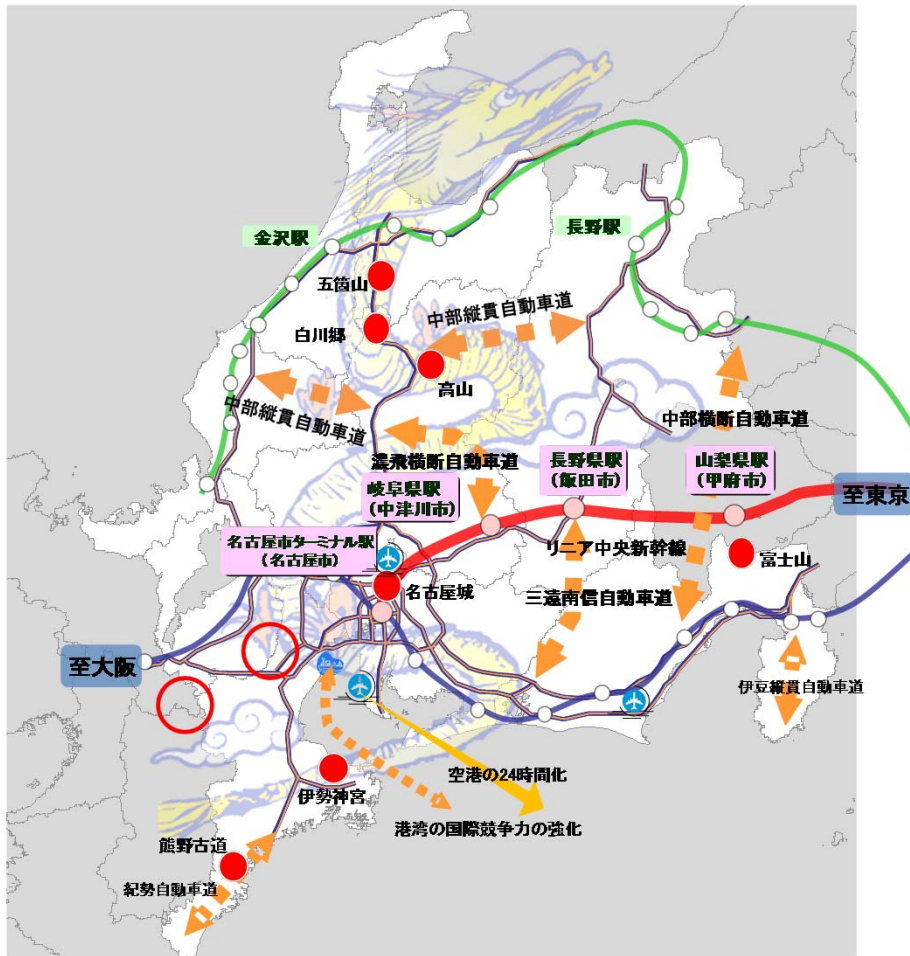
- 子供がのびのびと安全に成長できる社会の実現を目指す
- ユビキタスネットワーク社会に対応した情報提供を進める
- 快適で安全に暮らせる生活圏の実現を目指す
- 安全で住みやすい居住環境の実現を目指す
- 誇りや愛着を持てる協働・参加型の地域づくりを支援



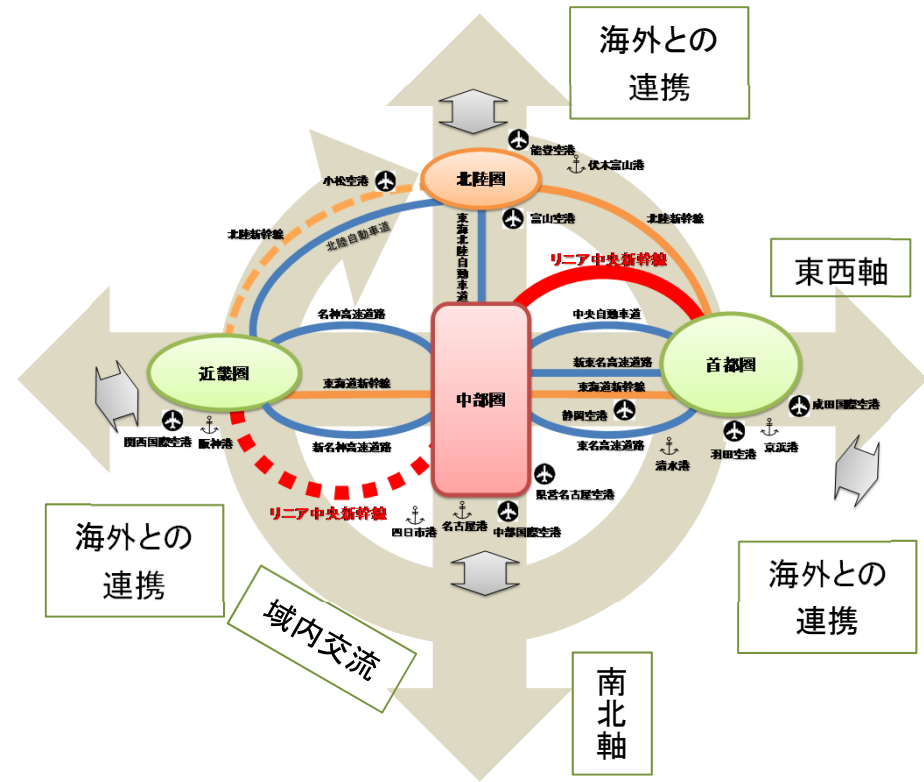
# 中部全体で目指す地域づくり ～ 「まんなかで日本をリードする中部」の形成

日本のロータリーとして新たな価値を生み出す個性と魅力ある圏域を形成するため、「日本のまんなかから世界のまんなかへ」と飛翔する将来像の実現を目指す

## ■ 中部ブロックの将来像



## ■ 高速交通ネットワークを活用した連携イメージ



9つの地域の役割と発展を重視した、相互連携による地域づくり  
各地域が強みを活かし弱みを克服するための各種プロジェクトを推進するとともに、各地域の連携を図る

# 9つの各地域の概要

## ① 駿河湾沿岸から長野県東部を結ぶ地域

- ・富士川その他、興津川、安倍川、大井川などの流域
- ・古くは、静岡県中部から甲州への富士川街道で結ばれた地域であり、佐久甲州街道で信州佐久を結ぶ地域一帯

## ② 南信から三遠を結ぶ地域

- ・諏訪湖から遠州灘に注ぐ天竜川その他、豊川の流域一帯
- ・古くは、静岡県西部(遠州)や愛知県三河から信州への「塩の道」で結ばれた地域

## ③ 名古屋都市圏一帯を取り巻く地域

- ・名古屋を中心とする東海三県にわたる経済圏域

## ④ 東海と北陸を結ぶ地域

- ・飛騨川～木曾川、長良川、神通川、庄川の流域一帯
- ・東海北陸自動車道が全通し、新たな交流が育まれる地域

## ⑤ 東海と近畿を結ぶ地域

- ・古くは、近畿と東海地方が七道駅路で結ばれ、その後、鎌倉街道、徳川家康の五街道へと変遷する東西の大動脈で結ばれた地域
- ・新名神高速道路が開通し、新たな交流が育まれる地域

## ⑦ 富士山麓と伊豆半島、丹沢周辺を結ぶ地域

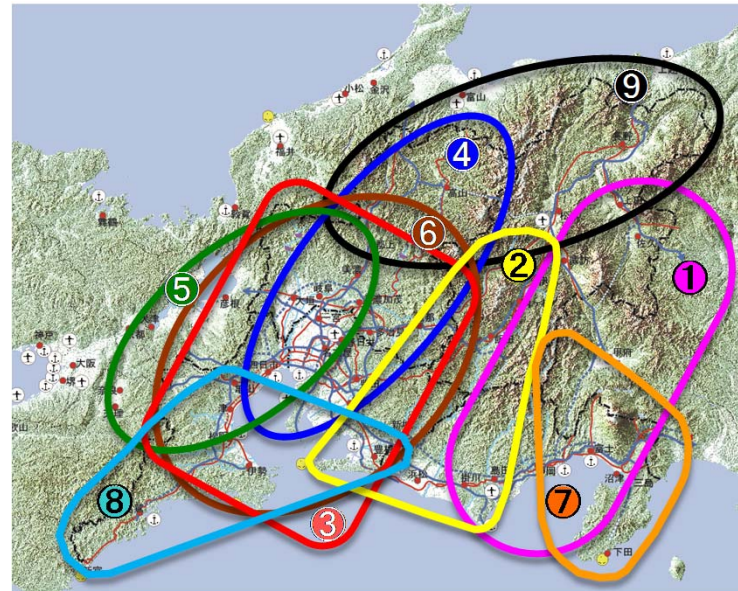
- ・富士山をはじめ箱根・伊豆など自然景勝地や温泉資源に恵まれ、古くから保養地や観光地、別荘地として発展してきた地域一帯
- ・富士箱根伊豆国立公園に指定された地域一帯

## ⑧ 伊勢と紀伊半島中南部を結ぶ地域

- ・古くは、熊野那智大社など熊野三山がある熊野と、伊勢神宮のある伊勢が世界遺産に登録された熊野古道で結ばれた地域
- ・また熊野古道により、紀伊や大和とも結ばれた地域

## ⑨ 長野と飛騨・奥美濃、北陸沿岸を結ぶ地域










- ・古くは、富山湾の鰯を高山～信州へ運ぶ「ブリ街道」と、糸魚川河口から信州へ塩を運ぶ「塩の道」で結ばれた地域
- ・信濃川～千曲川流域で新潟とも結ばれる地域



## ⑥ 伊勢湾・三河湾流域

- ・伊勢湾・三河湾に注ぐ流域圏、伊勢湾・三河湾沿岸地域

■「地域づくりのコンセプト」導出に係る関連キーワードの整理

地域	地域の概要	地域の特徴		地域の目指すべき将来イメージ	地域づくりのコンセプト	重点対策	広域的な観点で推進すべき事項
		○:強み	×:弱み				
①駿河湾沿岸から長野県東部を結ぶ地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>長野県境に源を発し、山梨県を上流域に持つ富士川、興津川、安倍川、大井川などの流域。</li> <li>古くは、静岡県中部(駿河)から甲州へ塩などの物資を運ぶ富士川街道で結ばれた地域</li> <li>佐久甲州街道で信州佐久を結ぶ地域一帯。日本を横断する地域。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の社会経済活動を下支える地域・日本の大動脈を有する</li> <li>・東名、新東名、中央道、東海道新幹線によるリダンダンシーが確立されたエリア</li> <li>・富士山静岡空港・清水港・御前崎港を有する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>×自然災害が社会経済活動に与える影響が大きい地域</li> <li>・南北軸の交通ネットワークが未成熟</li> <li>・南海トラフ巨大地震における甚大な被害の懸念</li> <li>・大規模災害時の交通寸断による社会経済への甚大な影響の恐れ</li> <li>・河川氾濫の懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害に強い安全・安心基盤が整備された地域</li> <li>⇒東西交通の代替性を活かし、大規模災害に備える</li> <li>●内陸のフロンティア構想など、地域ポテンシャルを活かした産業経済集積の強化</li> <li>⇒社会経済を下支えるポテンシャルを活かす</li> <li>●南北連携を強化する交通ネットワークの形成により、全方向的に交流・連携が活発な地域</li> <li>⇒南北軸の交通ネットワークを強化する</li> <li>●富士山静岡空港開港を契機に、東アジアをはじめ国内外の人や物の交流を一層活発化させ、当地域の様々な産業や観光・文化など魅力あふれる地域</li> <li>⇒交流拠点となる国際空港を活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本の国土・経済の大動脈を支える地域づくり</li> </ul> <p>リニア中央新幹線と高速道路の多重化による東西交通の代替性を活かすとともに、内陸フロンティア機能や国際空港を積極的に活用し、国土の防災・減災(老朽化対策)と日本経済に貢献する地域を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ハード、ソフトを組合せた多重防御</li> <li>・交通網の耐震化や代替補完機能の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水害対策や土砂災害対策、津波・高潮対策等</li> <li>・拠点都市と周辺地域を結ぶ高速交通ネットワーク計画の検討</li> <li>・国際的人流・物流に関するサービスの高度化・効率化</li> <li>・昇龍道プロジェクトの推進</li> </ul>
②南信から三遠を結ぶ地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>諏訪湖から遠州灘に注ぐ天竜川の他、豊川の流域一帯。</li> <li>古くは、静岡県西部(遠州)や愛知県三河から信州(塩尻)への「塩の道」(伊那街道・秋葉街道)で結ばれた地域。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国際物流、交流拠点を有する地域</li> <li>・三河港、御前崎港、富士山静岡空港といった国際ゲートウェイを有する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>×国土保全メカニズムの脆弱化が懸念される地域</li> <li>・ダム機能の低下、海岸浸食の深刻化</li> <li>・日本有数の山岳地域・中山間地域における森林荒廃</li> <li>・南北方向の高速交通ネットワークが未成熟</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●総合的な土砂管理の取り組み、多様な生態系等の保全等により、環境にやさしく災害に強い地域</li> <li>⇒ダム機能の低下、海岸浸食の深刻化に対応する</li> <li>●太平洋沿岸と内陸部を結ぶ交通ネットワークとリニア中央新幹線駅からの交通ネットワークによる人や物の交流が活発な地域</li> <li>⇒南北方向の交流を活性化させる</li> <li>●環伊勢湾地域の各拠点都市や各国際ゲートウェイとの連携強化により地域の魅力と成長力を高めるモデル圏域</li> <li>⇒三河港、御前崎港、富士山静岡空港を活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■国土の保全と多様な交流を担う地域づくり</li> </ul> <p>水源地域から下流域にわたり、地域を一体的に保全するとともに、それらの取組を通じ、県域を越えた地域間交流の活性化による豊かな地域づくりを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天竜川水系の総合的な土砂管理</li> <li>・海岸侵食対策</li> <li>・三遠南信自動車道の整備</li> <li>・港湾と空港の連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニアに接続する都市間交通ネットワークの整備</li> <li>・東西方向の高速交通ネットワークの計画の検討</li> <li>・三河港の物流拠点機能強化</li> <li>・昇龍道プロジェクトの推進</li> </ul>
③名古屋都市圏一帯を取り巻く地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>名古屋を中心とする東海三県にわたる経済圏域。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○我が国経済の牽引地域・ものづくり産業の集積地で我が国経済を牽引</li> <li>・名古屋港、中部国際空港といった国際ゲートウェイを有する</li> <li>・交通ネットワークの要衝</li> <li>・ものづくり産業にゆかりのある多様な歴史・文化・観光資源を有する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>×自然災害への防災・減災を促進すべき地域</li> <li>・南海トラフ巨大地震における甚大な被害の懸念</li> <li>・我が国最大のゼロメートル地帯を有する</li> <li>・社会資本ストックの寸断による社会経済活動停滞の懸念</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●災害に強い安全・安心基盤を整えた地域</li> <li>⇒自然災害に備える</li> <li>●都市圏環状道路の整備とリニア中央新幹線駅からの交通ネットワークによる人や物の交流が活発な地域</li> <li>⇒人・モノ・情報の集積を活かす</li> <li>●企業進出や宅地開発、新たな産業が創出される国際的に強いものづくり産業が発展した地域</li> <li>⇒ものづくり産業の集積を活かす</li> <li>●様々な産業や観光・文化など魅力あふれる地域</li> <li>⇒多様な文化を活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■世界最強都市圏を創出する地域づくり</li> </ul> <p>リニア中央新幹線をはじめ、高速交通網の連携・連結強化を背景として、国際競争力の高い産業集積地を目指すとともに、文化や観光交流の中枢拠点としても成長する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多重防御による災害対策</li> <li>・ものづくりの中心地としての信頼確保</li> <li>・社会資本ストックの適切な維持管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水害対策や津波・高潮対策等</li> <li>・リニアによる世界最強都市圏誕生に向けた取組</li> <li>・名古屋港・四日市港の効率化・高規格化</li> <li>・昇龍道プロジェクトの推進</li> </ul>
④東海と北陸を結ぶ地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>岐阜県高山市に源を発し、太平洋に注ぐ河川(飛騨川〜木曾川、長良川)と日本海に注ぐ河川(神通川、庄川)の流域一帯。</li> <li>太平洋沿岸と日本海沿岸とを直結する東海北陸自動車道が全通し、新たな交流が育まれる地域。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○北陸経済圏との連携を支える地域</li> <li>・東海北陸自動車道の開通による南北ネットワークの拡大</li> <li>・環日本海経済圏との連携強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>×南北交流軸が十分ではなく、自然災害に脆弱な地域</li> <li>・水源地の森林の荒廃</li> <li>・洪水、土砂災害の懸念</li> <li>・雪害対策</li> <li>・南北連携の整備が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●港湾・空港を結ぶ多様なネットワーク形成と、リニア中央新幹線駅からの交通ネットワークによる産業立地等の一層の促進により交流が活発で活力あふれる地域</li> <li>⇒太平洋側の経済力を活かす</li> <li>●揖斐川上流域等の水源地を保全し上下流域が交流する地域</li> <li>⇒水源地の荒廃を克服する</li> <li>●多様な観光ルートの提供により、地場産業や観光産業が活性化する地域</li> <li>⇒日本海側の多様な観光資源を活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本海と連携した新たな交流圏を構築する地域づくり</li> </ul> <p>昇龍道プロジェクトを基軸とした日本海側の魅力的な観光資源との融合により、地域の魅力を高め、広域交流の活性化を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水害・土砂災害</li> <li>・雪害等の対策</li> <li>・南北交流軸の強化</li> <li>・上流域の水源地保全</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速交通ネットワークの整備</li> <li>・リニアに接続する都市間交通ネットワークの整備</li> <li>・昇龍道プロジェクトの推進</li> </ul>
⑤東海と近畿を結ぶ地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>古くは、近畿(朝廷のあった畿内)と東海地方(伊勢や尾張、美濃など)が七道駅路で結ばれ、その後、鎌倉街道、徳川家康の五街道(東海道)へと変遷する東西の大動脈で結ばれた地域。</li> <li>・新名神高速道路により、新たな交流が育まれる地域。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国際交易拠点が立地し、関西マーケットへの近接性を活かした発展が期待出来る地域</li> <li>・四日市港、名古屋港といった国際ゲートウェイを有する</li> <li>・新名神高速道路の一部開通による近畿圏との連携強化</li> <li>・関西マーケットとの近接性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>×慢性的な交通渋滞が物流・交流活動に影響を及ぼしている地域</li> <li>・新名神高速道路の未整備による交通渋滞</li> <li>・沿岸部の津波、高潮災害などによる交通障害</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●産業立地等の促進や新たな産業の創出とともに、リニア中央新幹線駅からの交通ネットワークによる名古屋都市圏をはじめ国内外との交流が活発な地域</li> <li>⇒国際交易拠点、隣接する関西マーケットを活かす</li> <li>●人・モノ・情報の交流・連携により、当地域の様々な観光や文化など魅力あふれる地域</li> <li>⇒隣接する関西マーケットを取り込む</li> <li>●災害に強い安全・安心基盤を整えた地域</li> <li>⇒沿岸部の津波、高潮災害への恐れに備える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■国際交易の拠点的な地域として競争力を高める地域づくり</li> </ul> <p>近畿圏と人・モノ・情報の交流・連携を図るとともに、安全安心な基盤を構築することにより、国際競争力の高い国際的な交易拠点を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多重防御による災害対策</li> <li>・南北交流軸の強化と代替性の確保</li> <li>・産業立地促進や新産業創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リニアに接続する都市間交通ネットワークの整備</li> <li>・港湾・空港への高速交通アクセス計画の検討</li> <li>・昇龍道プロジェクトの推進</li> </ul>
⑥伊勢湾・三河湾流域	<ul style="list-style-type: none"> <li>伊勢湾・三河湾に注ぐ流域圏、伊勢湾・三河湾沿岸地域。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○伊勢湾流域としての一体感を持った地域</li> <li>・(森・川・海の豊富な美しい自然資源を保有)</li> <li>・伊勢湾流域で利害が享受された地域</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>×伊勢湾流域圏としての自然環境の荒廃が懸念される地域</li> <li>・閉鎖性水域による水質汚濁</li> <li>・水源地の森林荒廃</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●森林、農用地等の保全・整備、海域の底質改善や水質浄化機能の保全・再生・創出等により、流域圏の健全な水・物質循環の構築を目指す地域</li> <li>⇒自然環境の荒廃を克服する</li> <li>●生物の息息・生育する干潟、浅場、藻場等の保全・再生・創出等を行い、多様な生態系と漁業生産の回復</li> <li>⇒閉鎖性水域の水質汚濁を克服する</li> <li>●人々が水辺で親しみ安全で憩い・安らぎを得られる空間を拡充される地域</li> <li>⇒豊かな自然資源を活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■伊勢湾の流域圏の保全と連携を育む地域づくり</li> </ul> <p>伊勢湾の上下流域の多様な主体が環境保全に向けた取組を推進するとともに、循環型社会の構築に向けた、上下流域連携の活性化を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海域底質改善</li> <li>・水質浄化機能の保全・再生・創出</li> <li>・浅場・藻場・干潟の再生</li> <li>・水源地保全および憩い空間の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健全な水・物質循環の構築</li> <li>・市街地における流域下水道等の汚染負荷削減</li> <li>・憩い・やすらぎ空間の拡充 検討</li> <li>・景観・環境の基準づくり</li> </ul>
⑦富士山麓と伊豆半島、丹沢周辺を結ぶ地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>富士山をはじめ箱根・伊豆など自然景勝地や温泉資源に恵まれ、古くから保養地や観光地、別荘地として発展してきた地域一帯。</li> <li>・富士箱根伊豆国立公園に指定された地域一帯。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○富士山をはじめとした様々な観光資源を有し、首都圏マーケットの取り込みにより活力向上が期待出来る地域</li> <li>・富士山の世界遺産登録</li> <li>・(多くの景勝地を有する)</li> <li>・富士山静岡空港を有する</li> <li>・首都圏との近接性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>×大規模自然災害の甚大な被害を被る恐れのある地域</li> <li>・南北交通軸の弱さ(未整備区間の残る伊豆縦貫自動車道)</li> <li>・南海トラフ巨大地震、富士山噴火の危機</li> <li>・慢性的な交通渋滞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●豊かな自然環境や魅力ある観光資源等を生かし、他地域と連携した多様な観光ルートの提供や富士山の世界文化遺産登録の取り組みなど観光産業等の更なる人的交流の活発化を目指す地域</li> <li>⇒富士山を中心とした観光資源を活かす</li> <li>●内陸のフロンティア構想とともに災害に強く交流が活発な地域</li> <li>⇒大規模自然災害に備える</li> <li>●憩い・安らげる空間と産業や暮らしがー帯となった新たなモデル圏域</li> <li>⇒中部のみならず、首都圏の憩いに対するニーズを取り込む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■中部の象徴的な観光資源の国内外の情報発信力を高める地域づくり</li> </ul> <p>富士山をはじめとした多様な観光資源を有するポテンシャルを活用し、国内外の認知度を高め、持続的で安定的な観光圏域による地域活性化を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジア等との交流の拡大・活性化</li> <li>・各観光地へのアクセス改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水害対策や津波・高潮対策等</li> <li>・昇龍道プロジェクトの推進</li> <li>・観光地間を結ぶ高速交通ネットワーク計画の検討</li> </ul>
⑧伊勢と紀伊半島中南部を結ぶ地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>古くは、熊野那智大社など熊野三山がある熊野と、伊勢神宮のある伊勢が世界遺産に登録された熊野古道(伊勢路)で結ばれた地域。</li> <li>・熊野古道により、紀伊や大和(和歌山・奈良県)とも結ばれた地域。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の神道文化を象徴する歴史・伝統・文化資源を有する地域</li> <li>・伊勢神宮や世界遺産熊野古道を有する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>×未成熟な交通ネットワークにより、有事の際の交通寸断の恐れを有するとともに、地域活力が低迷している地域</li> <li>・南海トラフ巨大地震、豪雨など自然災害の被災の懸念</li> <li>・交通網の寸断が起こりやすい</li> <li>・高速交通ネットワークが未成熟</li> <li>・(過疎化の進行)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●台風や東南海・南海地震等の自然災害に強い地域</li> <li>⇒自然災害に備える</li> <li>●近畿圏や環伊勢湾地域をはじめ国内外と交流が活発な地域</li> <li>⇒交通ネットワークの脆弱性を克服する</li> <li>●世界遺産や地形・気候などの風土を活かした観光産業の更なる活性化と、新たな産業分野の創出など活力あふれる地域</li> <li>⇒日本の神道文化を象徴する歴史・伝統・文化を活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■古来からの文化資源を未来に継承する地域づくり</li> </ul> <p>防災・克災力を高め、古来の文化資源を守り継承し、その活用による持続的な発展を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急時、高度医療施設へのアクセス向上</li> <li>・多重防御による災害対策</li> <li>・観光・交流拠点の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津波・高潮対策等の骨太な社会資本整備</li> <li>・観光地間を結ぶ高速交通ネットワーク計画の検討</li> <li>・昇龍道プロジェクトの推進</li> </ul>
⑨長野と飛騨・奥美濃、北陸沿岸を結ぶ地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>古くは、富山湾の鱒を高山〜信州(松本)へ運ぶ「ブリ街道」(飛騨街道〜野麦街道)と、糸魚川河口から信州(塩尻)へ塩を運ぶ「塩の道」(千国街道〜松本街道)で結ばれた地域。</li> <li>・信濃川〜千曲川流域で新潟とも結ばれる地域</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>○日本の屋根と分水嶺を介して中部と北陸を接続する地域</li> <li>・北陸新幹線の開通を控える</li> <li>・北陸の国際空港に近接している</li> <li>・中部の水源地域が連担する地域</li> <li>・避暑・冬季レジャーで発展</li> <li>・(豊富な美しい自然を有する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>×火山、土砂、豪雪の自然災害の恐れがある地域</li> <li>・日常生活を脅かす豪雪地帯を有する</li> <li>・火山災害、土砂災害の懸念</li> <li>・(水源地の森林の荒廃)</li> <li>・(中山間地域の担い手の減少)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●流出土砂の抑制、河川整備等により、様々な自然災害に強い地域</li> <li>⇒土砂災害に備える</li> <li>●交通ネットワークの形成により、関東・北陸・東海エリアをはじめ、空港・港湾を介した国内外との交流が活発な地域</li> <li>⇒北陸新幹線、国際空港・港湾を活かす</li> <li>●北陸新幹線を活用した観光産業の活性化と農林業を活かした自然体験等や滞在型観光などにみる新たな産業の創出など活力あふれる地域</li> <li>⇒豊富な美しい自然を活かす</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日本の屋根と分水嶺を美しく保全する地域づくり</li> </ul> <p>雄大な自然景観を維持保全するとともに、自然災害への対応を強化し、自然を守る交流の拡大を進め、美しく持続的な水源地の形成を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代替道路の確保</li> <li>・火山災害や土砂災害等への対応</li> <li>・関東・北陸・東海エリアとの交流促進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的かつ計画的な水害対策土砂災害対策</li> <li>・岐阜・石川・富山・新潟を結ぶ広域交通機能の強化</li> <li>・昇龍道プロジェクトの推進</li> </ul>

( )は、当該地域に特化した特徴では無いが、地域イメージ、コンセプトを導出する上で必要となる視点として記している

## 9つの各地域における地域づくりのコンセプト(1/3)

	地域づくりのコンセプト	地域の強み・弱み	地域の目指すべき将来イメージ
① 駿河湾沿岸から長野県東部を結ぶ地域	<p><b>日本の国土・経済の大動脈を支える地域づくり</b></p> <p>リニア中央新幹線と高速道路の多重化による東西交通の代替性を活かすとともに、内陸フロンティア機能や国際空港を積極的に活用し、国土の防災・減災(老朽化対策)と日本経済に貢献する地域を目指す。</p>	<p>○日本の社会経済活動を下支えする地域・日本の大動脈を有する</p> <p>×自然災害が社会経済活動に与える影響が大きい地域</p>	<p>◆災害に強い安全・安心基盤が整備された地域</p> <p>◆内陸のフロンティア構想など、地域ポテンシャルを活かした産業経済集積の強化</p> <p>◆南北連携軸を強化する交通ネットワークの形成により、全方向的に交流・連携が活発な地域</p> <p>◆国内外との人や物の交流を一層活発化させ、当地域の様々な産業や観光・文化など魅力あふれる地域</p>
② 南信から三遠を結ぶ地域	<p><b>国土の保全と多様な交流を担う地域づくり</b></p> <p>水源地域から下流域にわたり、地域を一体的に保全するとともに、それらの取組を通じ、県域を越えた地域間交流の活性化による豊かな地域づくりを目指す。</p>	<p>○国際物流、交流拠点をも有する地域</p> <p>×国土保全メカニズムの脆弱化が懸念される地域</p>	<p>◆総合的な土砂管理の取り組み、多様な生態系等の保全等による環境にやさしく災害に強い地域</p> <p>◆太平洋沿岸と内陸部を結ぶ交通ネットワークとリニア中央新幹線駅からの交通ネットワークによる人や物の交流が活発な地域</p> <p>◆環伊勢湾地域の各拠点都市や各国際ゲートウェイとの連携強化により地域の魅力と成長力を高めるモデル圏域</p>
③ 名古屋都市圏一帯を取り巻く地域	<p><b>世界最強都市圏を創出する地域づくり</b></p> <p>リニア中央新幹線をはじめ、高速交通網の連携・連結強化を背景として、国際競争力の高い産業集積地を目指すとともに、文化や観光交流の中核拠点としても成長する。</p>	<p>○我が国経済の牽引地域・ものづくり産業の集積地で我が国経済を牽引</p> <p>×自然災害への防災・減災を促進すべき地域</p>	<p>◆災害に強い安全・安心基盤を整えた地域</p> <p>◆都市圏環状道路の整備とリニア中央新幹線駅からの交通ネットワークによる人や物の交流が活発な地域</p> <p>◆企業進出や宅地開発、新たな産業が創出される国際的に強いものづくり産業が発展した地域</p> <p>◆様々な産業や観光・文化など魅力あふれる地域</p>

## 9つの各地域における地域づくりのコンセプト(2/3)

	地域づくりのコンセプト	地域の強み・弱み	地域の目指すべき将来イメージ
④東海と北陸を結ぶ地域	<p><b>日本海と連携した新たな交流圏を構築する地域づくり</b></p> <p>昇龍道プロジェクトを基軸とした日本海側の魅力的な観光資源との融合により、地域の魅力を高め、広域交流の活性化を目指す</p>	<p>○北陸経済圏との連携を支える地域</p> <p>×南北交流軸が十分ではなく、自然災害に脆弱な地域</p>	<p>◆港湾・空港を結ぶ多様なネットワーク形成と、リニア中央新幹線駅からの交通ネットワークによる産業立地等の一層の促進により交流が活発で活力あふれる地域</p> <p>◆揖斐川上流域等の水源地を保全し上下流域が交流する地域</p> <p>◆多様な観光ルートの提供により、地場産業や観光産業が活性化する地域</p>
⑤東海と近畿を結ぶ地域	<p><b>国際交易の拠点的な地域として競争力を高める地域づくり</b></p> <p>近畿圏との人・モノ・情報の交流・連携を図るとともに、安全安心な基盤を構築することにより、国際競争力の高い国際的な交易拠点を目指す。</p>	<p>○国際交易拠点が立地し、関西マーケットへの近接性を活かした発展が期待出来る地域</p> <p>×慢性的な交通渋滞が物流・交流活動に影響を及ぼしている地域</p>	<p>◆産業立地等の促進や新たな産業の創出とともに、リニア中央新幹線駅からの交通ネットワークによる名古屋都市圏をはじめ国内外との交流が活発な地域</p> <p>◆人・モノ・情報の交流・連携により、当地域の様々な観光や文化など魅力あふれる地域</p> <p>◆災害に強い安全・安心基盤を整えた地域</p>
⑥伊勢湾・三河湾流域	<p><b>伊勢湾の流域圏の保全と連携を育む地域づくり</b></p> <p>伊勢湾の上下流域の多様な主体が環境保全に向けた取組を推進するとともに、循環型社会の構築に向けた、上下流域連携の活性化を目指す。</p>	<p>○伊勢湾流域としての一体感を持った地域</p> <p>×伊勢湾流域圏としての自然環境の荒廃が懸念される地域</p>	<p>◆流域圏の健全な水・物質循環の構築を目指す地域</p> <p>◆生物の生息・生育する干潟、浅場、藻場等の保全・再生・創出等を行い、多様な生態系と漁業生産の回復</p> <p>◆人々が水辺で親しみ安全で憩い・安らぎを得られる空間を拡充される地域</p>

## 9つの各地域における地域づくりのコンセプト(3/3)

	地域づくりのコンセプト	地域の強み・弱み	地域の目指すべき将来イメージ
⑦富士山麓と伊豆半島、丹沢周辺を結ぶ地域	<p><b>中部の象徴的な観光資源の国内外の情報発信力を高める地域づくり</b></p> <p>富士山をはじめとした多様な観光資源を有するポテンシャルを活用し、国内外の認知度を高め、持続的で安定的な観光圏域による地域活性化を目指す。</p>	<p>○富士山をはじめとした様々な観光資源を有し、首都圏マーケットの取り込みにより活力向上が期待出来る地域</p> <p>×大規模自然災害の甚大な被害を被る恐れのある地域</p>	<p>◆他地域と連携した多様な観光ルートの提供や富士山の世界文化遺産登録の取り組みなど観光産業等の更なる人的交流の活発化を目指す地域</p> <p>◆内陸のフロンティア構想とともに災害に強く交流が活発な地域</p> <p>◆憩い安らげる空間と産業や暮らしが一体となった新たなモデル圏域</p>
⑧伊勢と紀伊半島中南部を結ぶ地域	<p><b>古来からの文化資源を未来に継承する地域づくり</b></p> <p>防災・克災力を高め、古来の文化資源を守り継承し、その活用による持続的な発展を目指す。</p>	<p>○日本の神道文化を象徴する歴史・伝統・文化資源を有する地域</p> <p>×未成熟な交通ネットワークにより、有事の際の交通寸断の恐れを有するとともに、地域活力が低迷している地域</p>	<p>◆台風や東南海・南海地震等の自然災害に強い地域</p> <p>◆近畿圏や環伊勢湾地域をはじめ国内外と交流が活発な地域</p> <p>◆世界遺産や地形・気候などの風土を活かした観光産業の更なる活性化と、新たな産業分野の創出など活力あふれる地域</p>
⑨長野と飛騨・奥美濃、北陸沿岸を結ぶ地域	<p><b>日本の屋根と分水嶺を美しく保全する地域づくり</b></p> <p>雄大な自然景観を維持保全するとともに、観光資源として活用するとともに、自然災害への対応を強化し、自然を守る交流の拡大を進め、美しく持続的な水源地の形成を目指す。</p>	<p>○日本の屋根と分水嶺を介して中部と北陸を接続する地域</p> <p>×火山、土砂、豪雪の自然災害の恐れがある地域</p>	<p>◆流出土砂の抑制、河川整備等により、様々な自然災害に強い地域</p> <p>◆関東・北陸・東海エリアをはじめ、空港・港湾を介した国内外との交流が活発な地域</p> <p>◆北陸新幹線を活用した観光産業の活性化と農林業を活かした自然体験等や滞在型観光などに見る新たな産業の創出など活力あふれる地域</p>

# 9つの各地域における重点対策および広域的な観点で進める事項の整理

	地域づくりのコンセプト	重点対策	広域的な観点で推進すべき事項
①駿河湾沿岸から長野県東部を結ぶ地域	日本の国土・経済の大動脈を支える地域づくり	安 ハード、ソフトを組合せた多重防御 安 交通網の耐震化や代替補完機能の確保	安 水害対策や土砂災害対策、津波・高潮対策等 産 交 拠点都市と周辺地域を結ぶ高速交通ネットワーク計画の検討 交 国際的人流・物流に関するサービスの高度化・効率化 交 昇龍道プロジェクトの推進
②南信から三遠を結ぶ地域	国土の保全と多様な交流を担う地域づくり	安 天竜川水系の総合的な土砂管理 安 環 海岸侵食対策 産 交 三遠南信自動車道の整備 産 港湾と空港の連携	産 交 リニアに接続する都市間交通ネットワークの整備 産 交 東西方向の高速交通ネットワーク計画の検討 産 三河港の物流拠点機能強化 交 昇龍道プロジェクトの推進
③名古屋都市圏一帯を取り巻く地域	世界最強都市圏を創出する地域づくり	安 多重防御による災害対策 安 産 ものづくりの中心地としての信頼確保 安 暮 社会資本ストックの適切な維持管理	安 水害対策や津波・高潮対策等 産 交 リニアによる世界最強都市圏誕生に向けた取組 産 名古屋港・四日市港の効率化・高規格化 交 昇龍道プロジェクトの推進
④東海と北陸を結ぶ地域	日本海と連携した新たな交流圏を構築する地域づくり	安 水害・土砂災害 安 雪害等の対策 交 南北交流軸の強化 環 上流域の水源地保全	産 交 高速交通ネットワークの整備 産 交 リニアに接続する都市間交通ネットワークの整備 交 昇龍道プロジェクトの推進
⑤東海と近畿を結ぶ地域	国際交易の拠点的な地域として競争力を高める地域づくり	安 多重防御による災害対策 産 交 南北交流軸の強化と代替性の確保 産 産業立地促進や新産業創出	産 交 リニアに接続する都市間交通ネットワークの整備 産 港湾・空港への高速交通アクセス計画の検討 交 昇龍道プロジェクトの推進
⑥伊勢湾・三河湾流域	伊勢湾の流域圏の保全と連携を育む地域づくり	環 海域底質改善 環 水質浄化機能の保全・再生・創出 環 浅場・藻場・干潟の再生 環 水源地保全および憩い空間の創出	環 健全な水・物質循環の構築 環 市街地における流域下水道等の汚染負荷削減 環 憩い・やすらぎ空間の拡充 検討 環 景観・環境の基準づくり
⑦富士山麓と伊豆半島・丹沢周辺を結ぶ地域	中部の象徴的な観光資源の国内外の情報発信力を高める地域づくり	交 東アジア等との交流の拡大・活性化 交 各観光地へのアクセス改善	安 水害対策や津波・高潮対策等 交 昇龍道プロジェクトの推進 交 観光地間を結ぶ高速交通ネットワーク計画の検討
⑧伊勢と紀伊半島中南部を結ぶ地域	古来からの文化資源を未来に継承する地域づくり	安 暮 緊急時、高度医療施設へのアクセス向上 安 多重防御による災害対策 交 観光・交流拠点の充実	安 津波・高潮対策等の骨太な社会資本整備 産 交 観光地間を結ぶ高速交通ネットワーク計画の検討 交 昇龍道プロジェクトの推進
⑨長野と飛騨・奥美濃、北陸沿岸を結ぶ地域	日本の屋根と分水嶺を美しく保全する地域づくり	安 暮 代替道路の確保 安 火山災害や土砂災害等への対応 交 関東・北陸・東海エリアとの交流促進	安 総合的かつ計画的な水害対策土砂災害対策 産 交 岐阜・石川・富山・新潟を結ぶ広域交通機能の強化 交 昇龍道プロジェクトの推進

凡例 安 : 災害に最も強い地域の構築 産 : 我が国経済の牽引 交 : 国内外の交流・連携機能の強化 環 : 世界有数の環境先進地域への挑戦 暮 : 最も暮らしやすい地域の形成

# リニア中央新幹線開業を見据えた地域づくり

(今回議論用資料)



# リニアインパクトの活用 ～リニア中央新幹線の概要～

## ■ルート

主な経由地は甲府市付近、南アルプス中南部、名古屋市付近、奈良市付近としている。



- 概略の路線<sup>※1</sup>
- 山梨リニア実験線<sup>※1</sup>
- 概略の駅位置<sup>※1</sup>
- ルート範囲<sup>※2</sup>
- 東海道新幹線

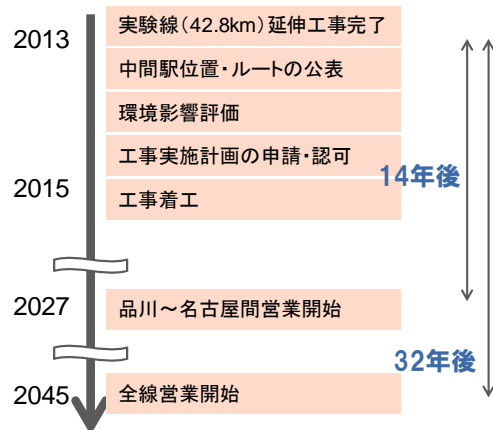
建設線	中央新幹線	
区間	東京都・大阪市	
走行方式	超電導磁気浮上方式	
最高設計速度	505キロメートル/時	
建設に要する費用の概算額(車両費を含む。)	90,300億円	
その他必要な事項	主要な経過地	甲府市付近、赤石山脈(南アルプス)中南部、名古屋市付近、奈良市付近

(注) 建設に要する費用の概算額には、利子を含まない。

出典:リニア中央新幹線建設促進期成同盟会、駅についてはJR東海「中央新幹線(東京都・名古屋市間)計画段階環境配慮書」を元に作成

## ■スケジュール

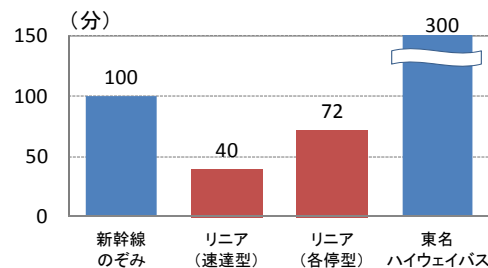
2014年度を目標に工事着工。名古屋開業は14年後。全線営業は32年後。



出典:JR東海公表資料等より作成

## ■時間短縮

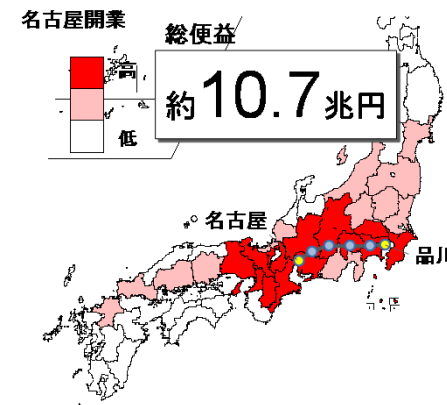
2014年度を目標に工事着工。名古屋開業は14年後。全線営業は32年後。



出典:JR東海公表資料、乗換案内より作成

## ■経済効果

経済効果は名古屋開業で約10.7兆円。



※開業年を2025年とし、同年を基準年として50年間の効果を算定。  
 ※「人口減少」や「技術進歩」を考慮した試算結果。

出典:三菱UFJリサーチ&コンサルティング資料

# リニアインパクトの活用 ～リニア中央新幹線による国土の新たな発展像～

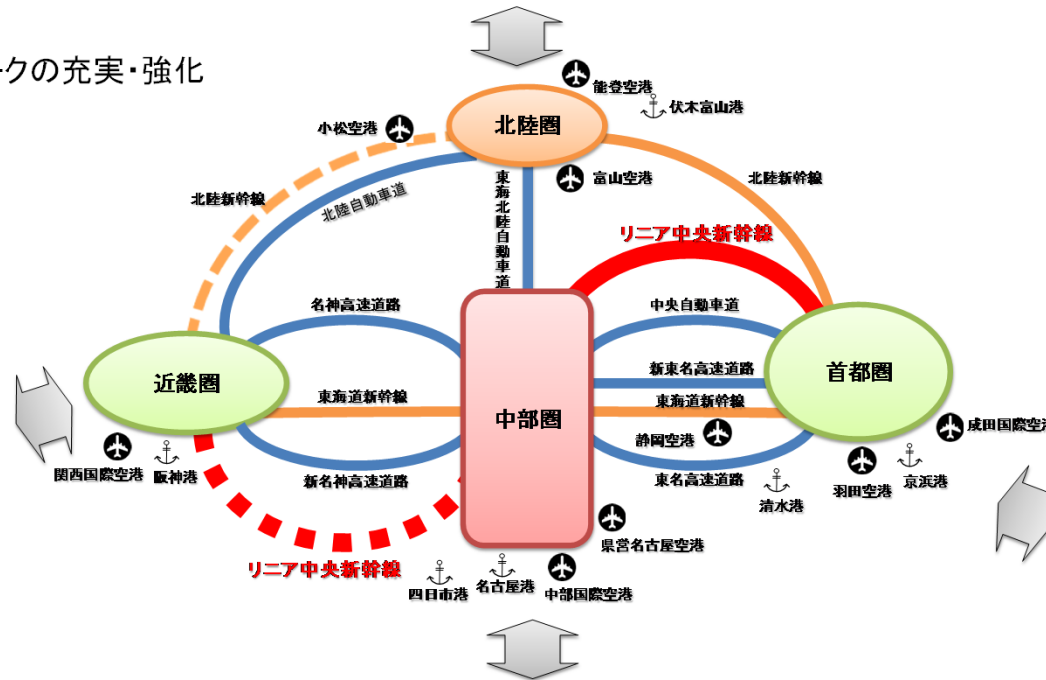
## ■国土の主たる発展課題

三大都市圏の連携強化  
(一体化)  
地方圏間の連携強化  
(北陸と中部との連携)

幹線道路・高速鉄道  
によるネットワークの  
重層化

国際空港・  
国際港湾の連携

## ■リニアを始めとする 社会資本ネットワークの充実・強化



## ■新たな国土の発展方向

日本の経済エンジンの強化  
(国際競争力の向上)  
豊かな生活圏の形成

強しなやかな国土の構築

国際交流基盤の強化  
(グローバル化への  
積極的な関与)

# リニア中央新幹線をめぐる動き ～各自治体・経済界の検討状況～

## ■自治体、経済界におけるリニア中央新幹線を基軸とした地域まちづくりビジョン等の検討状況



# リニアインパクトの活用 ～リニアを基軸とした地域まちづくりビジョン等の検討状況①～

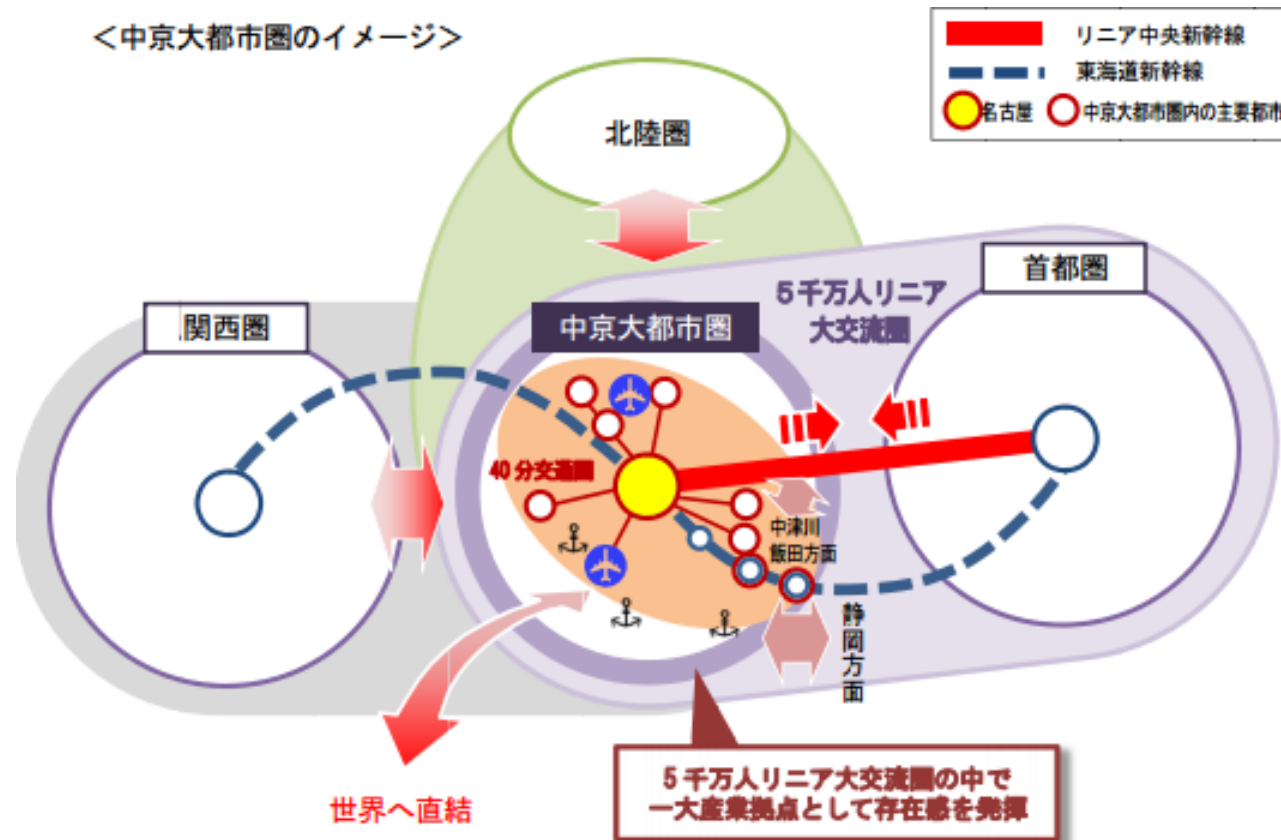
愛知県

主要な政策の方向性

- リニア中央新幹線の整備促進と40分交通圏の形成
- 広域道路ネットワークの整備
- 総合的な交通ネットワークの検討

あいちビジョン2020を今年度中に策定予定。案では、目指す姿として中京大都市圏の構想を打ち出し、その中でリニア開業効果を高める交通ネットワークの整備を主要な政策の一つとして位置付けている。

## ■めざすべき愛知の姿(リニアを生かし、世界の中で存在感を発揮する中京大都市圏)



# リニアインパクトの活用 ～リニアを基軸とした地域まちづくりビジョン等の検討状況②～

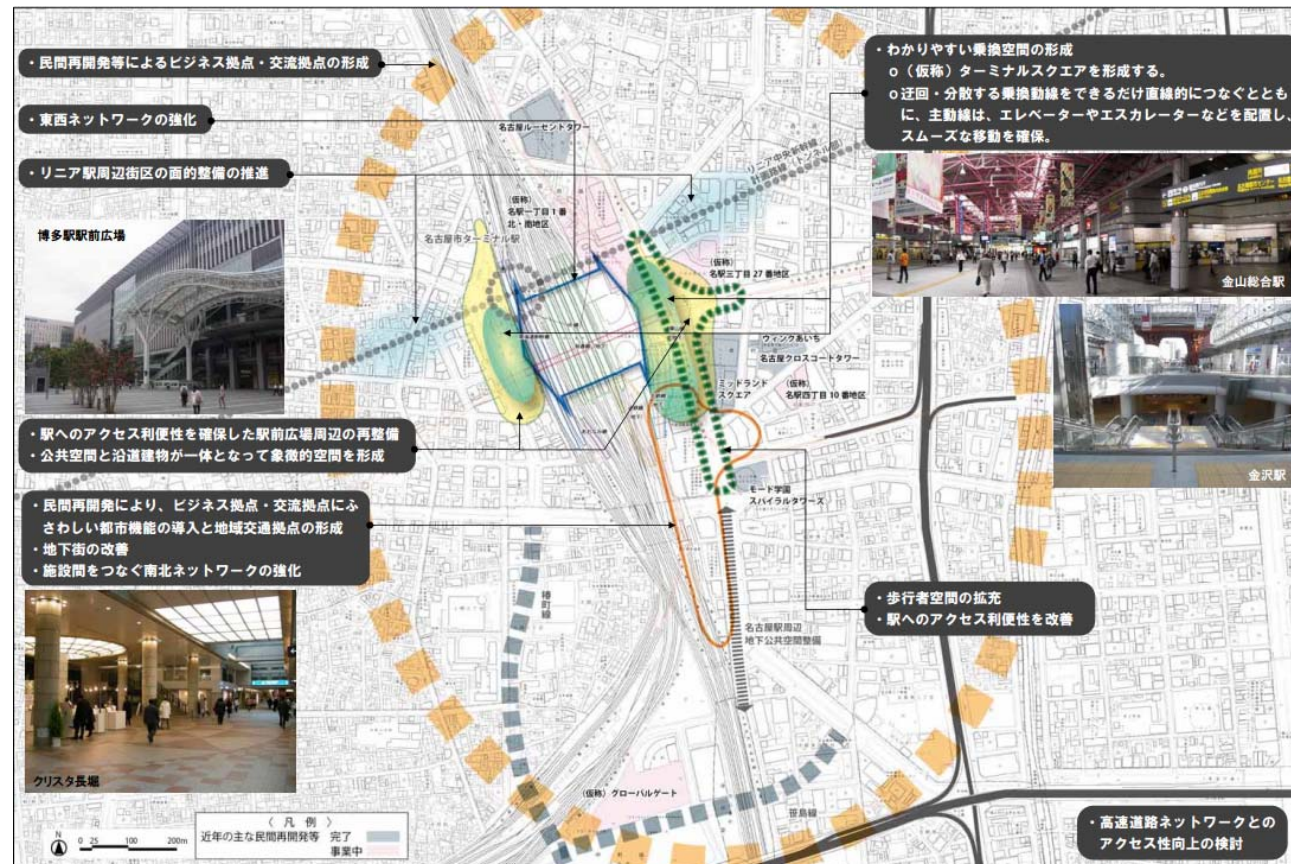
## 名古屋市

目標とするまちの姿：【世界に冠たるスーパーターミナル拠点】

- 国際的・広域的な役割を担う圏域の拠点・顔を目指す
- 誰にも使いやすい国際レベルのターミナル駅をつくる
- 都心における多彩な魅力を活かし、つないでいく
- リニア開通に向けて、行政と民間が一丸となって着実に構想を実現する

目標とするまちの姿として【世界に冠たるスーパーターミナル拠点】を掲げ、高いレベルの機能性を備えたまちづくりを着実に進めるとともに、広く叡智を集め、世界の人々が集まり、魅了し続けるまちを目指す。

### ■ 主要プロジェクト図



出典: 名古屋駅周辺まちづくり構想《骨子》(案)(平成25年11月、第4回名古屋駅周辺まちづくり構想懇談会)

# リニアインパクトの活用 ～リニアを基軸とした地域まちづくりビジョン等の検討状況③～

岐阜県

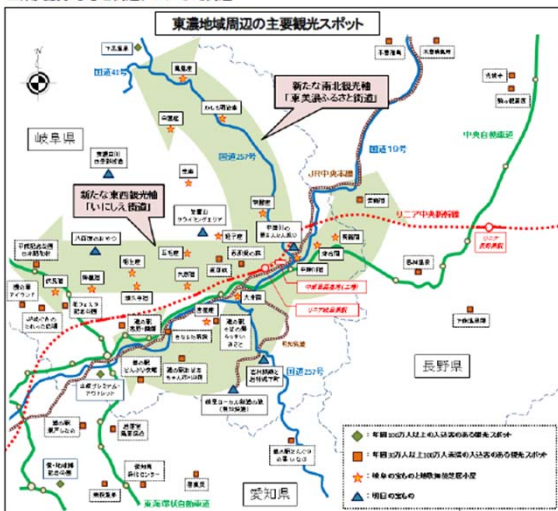
戦略の視点

- 広域的に効果を波及
- 大都市機能を分担
- 岐阜県独自の魅力を発揮

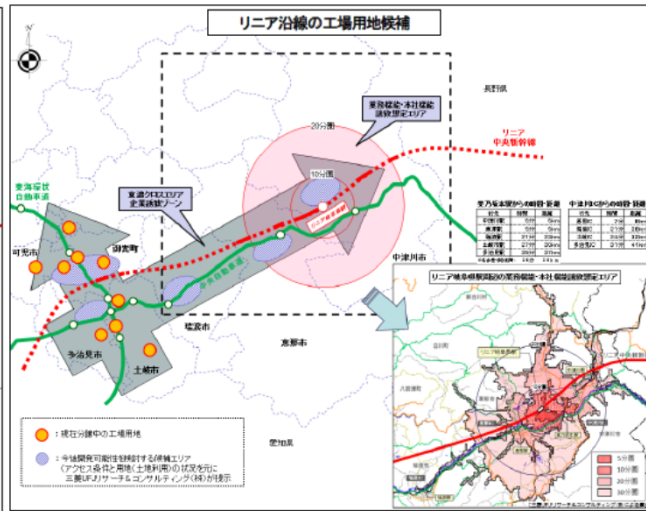
岐阜県リニア中央新幹線活用戦略(案)は、「観光振興・まちづくり」、「産業振興」及び「基盤整備」の3分野において地域づくりの方向性を検討し、重点的に展開する施策をとりまとめている。

## 観光振興・まちづくり戦略

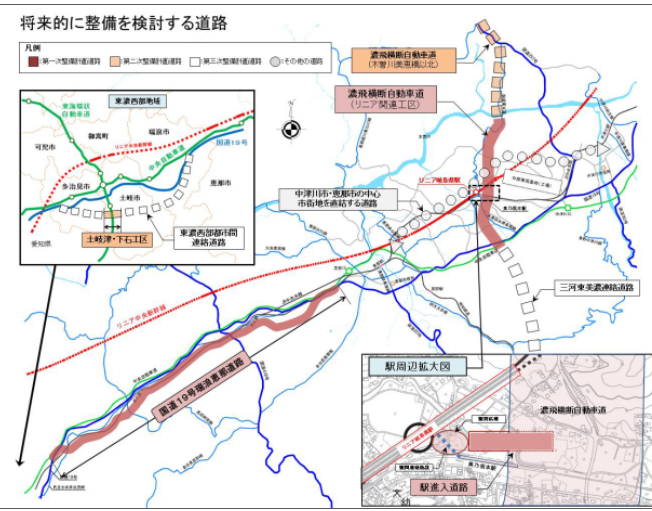
■東美濃ふるさと街道、いこいこ街道



## 産業振興戦略



## 基盤整備戦略



# リニアインパクトの活用 ～リニアを基軸とした地域まちづくりビジョン等の検討状況④～

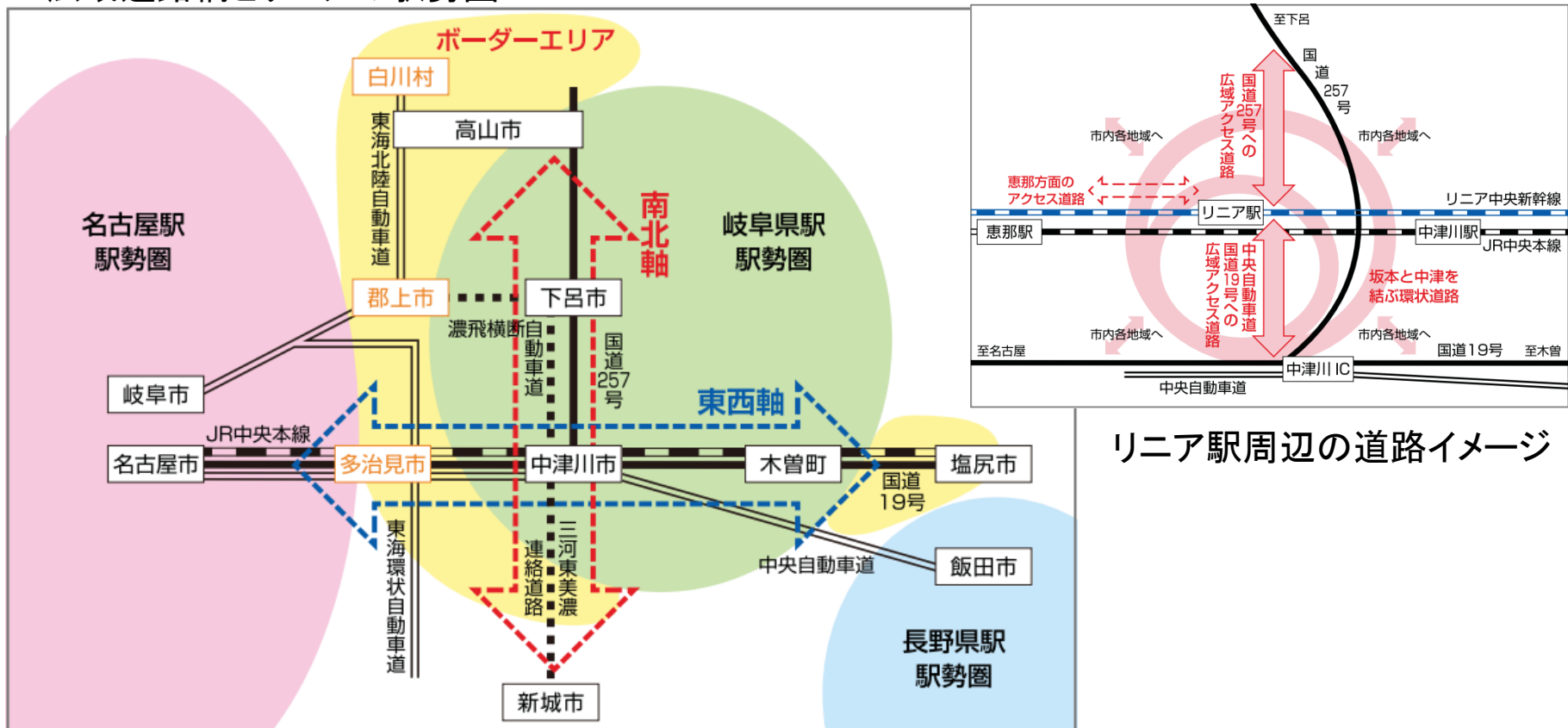
## 中津川市

### まちづくりの基本方針

- 開業後の波及効果を産業の活性化と市民の暮らしに活かす
- リニア建設の経済効果を最大限取り込む
- 開業に伴う影響への対応やシティーセールスを進める
- 県内・周辺地域の一体的発展という広域的役割を果たす
- 市民や地域との協働による都市計画と基盤の整備を進める

中津川市リニアのまちづくりビジョンを平成25年8月に策定し、県内・周辺地域の一体的発展という広域的役割を果たすことが基本方針で掲げられている。

### ■ 広域道路網とリニアの駅勢圏



リニア駅周辺の道路イメージ

# リニアインパクトの活用 ～リニアを基軸とした地域まちづくりビジョン等の検討状況⑤～

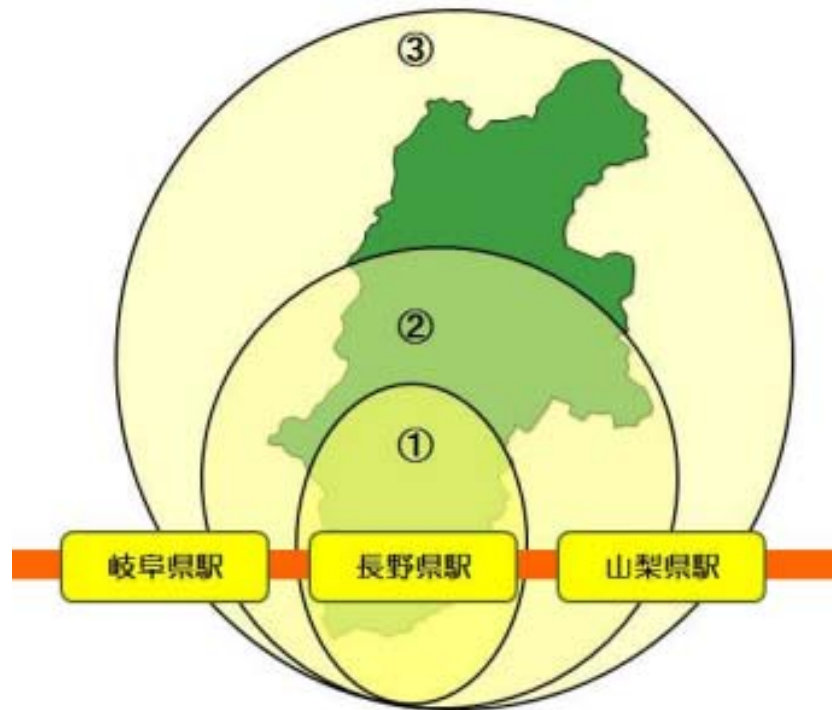
## 長野県

### リニア3駅活用交流圏の実現に向けた方針

- 山梨県駅・岐阜県駅との交流拡大
- リニアと地域の強みを組み合わせた産業振興
- 多様な移動手段を活用した広域観光の推進

長野県リニア活用基本構想(案)を平成26年2月に公表した。構想(案)では、リニア長野県駅を中心とした3つの広域交流圏を設定し、そのうちリニア3駅活用交流圏構想では、山梨県駅・岐阜県駅との連携に取り組むとしている。

### ■3つの広域交流圏



構 想	想定地域	ポイント
① 伊那谷交流圏構想	【長野県駅の駅勢圏】 上伊那・飯伊地域 (伊那谷)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 長野県駅を利用</li> <li>➢ リニアを活かし、大都市や世界とつながる地域</li> </ul>
② リニア3駅活用交流圏構想	【長野県駅・山梨県駅・岐阜県駅の駅勢圏】 諏訪・木曾・松本地域 及び近隣地域 (県中央地域)	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 長野県駅・山梨県駅・岐阜県駅の利用が可能</li> <li>➢ 鉄道、道路、空港による多様な移動手段を選択できる地域</li> </ul>
③ 本州中央部広域交流圏構想	【長野県全域】	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 2つの新幹線、高速道路等を基軸として、本州中央部における流動の創出が可能な地域</li> </ul>



# リニアインパクトの活用 ～リニアを基軸とした地域まちづくりビジョン等の検討状況⑥～

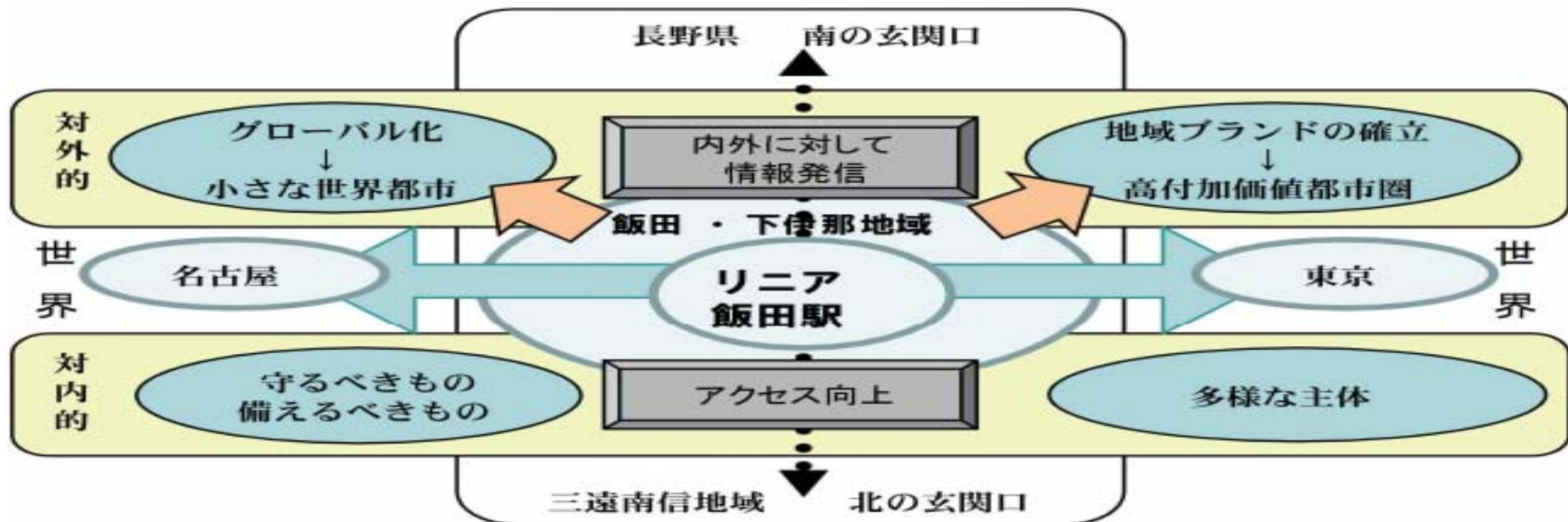
## 飯田市(南信州広域連合)

地域像の実現に向けて必要なこと

- 地域内外への「情報発信」
- 飯田駅への交通結節性(アクセス性)の向上
- 駅を中心とした街づくりの取組

リニア将来ビジョンを平成22年11月に策定し、地域像の実現に向けて必要なこととして「飯田駅への交通結節性(アクセス性)の向上」を挙げている。

### ■ 将来の地域像



# リニアインパクトの活用 ～リニアを基軸とした地域まちづくりビジョン等の検討状況⑦～

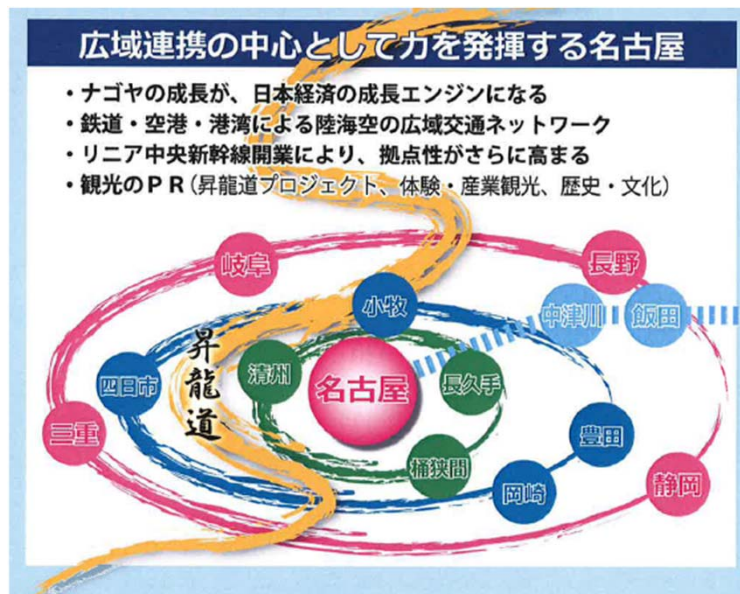
## 名古屋の街づくりを 考える会

重点施策「名古屋駅周辺地区」誰もが来たくなる最先端のまちに！

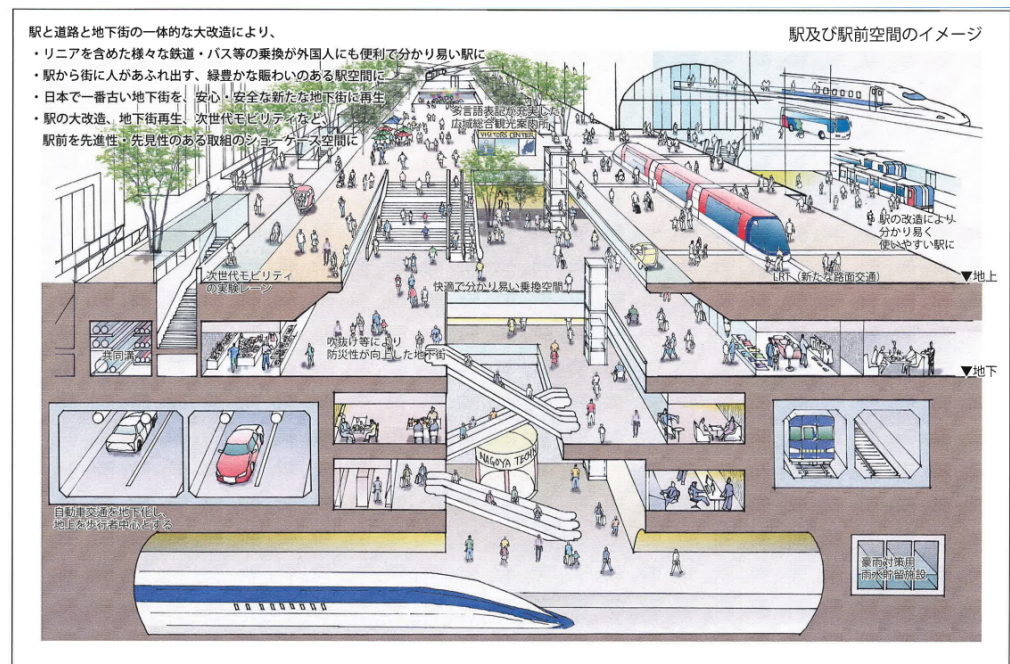
- 便利で安全な使いやすい日本一の駅に
- 中部圏のゲートウェイからゲートウェイシティへ
- 先進的なナゴヤをショーケース空間の創造

これからの名古屋の街づくりの前提となる視点を「持続可能な街づくり」と「広域連携の中心として力を発揮する名古屋」として提言した『(仮称)ナゴヤ・グランドビジョン』策定(平成25年6月)の中で、名古屋駅周辺地区について言及している。

### ■ これからの名古屋のまちづくりの前提となる視点



### ■ 名古屋駅および駅前空間のイメージ



※組織概要: 名古屋の都市としての魅力を高めることを目的に平成24年8月に発足。奥野信宏氏(中京大学教授)を委員長とし、名古屋商工会議所、一般社団法人中部経済連合会、学識経験者、民間企業・団体の有志計16名で構成される。

## リニアインパクトの活用 ～リニアを基軸とした地域まちづくりビジョン等の検討状況⑧～

名古屋商工会議所

世界に誇るゲートウェイ機能のある都市・名古屋の実現

- 「スーパーゲートウェイ機能を持つ都市・名古屋」の実現
- 「名古屋駅インター」の実現

「リニア中央新幹線開業を見据えた当地の地域づくり」に関する提言（平成25年3月）の中で、「スーパーゲートウェイ機能を持つ都市・名古屋」と「名古屋駅インター」の実現を訴えている。

### ■「リニア中央新幹線開業を見据えた当地の地域づくり」に関する提言

初めて名古屋に来た人でも、様々な交通機関の利用がスムーズにできるような利便性の確保と最高の結節機能が必須

「世界交流都市・名古屋」の玄関口として、地域交通拠点との乗換利便性に優れた施設であると同時に、「名古屋を目的地」に来訪される方に誇れるような機能の整備が期待される。

「スーパーターミナル」名古屋駅と、高速道路ネットワークを有機的に連携させる

### <世界に誇るゲートウェイ機能のある都市・名古屋の実現>

- ・使いやすく、すべての交通機関の乗換利便性を飛躍的に向上させた「スーパーターミナル名古屋駅」の実現
- ・内外からのお客さまをお迎えする、交流の時代を支える、世界一の移動利便性を兼ね備えた「スーパーゲートウェイ機能を持つ都市・名古屋」の実現
- ・有機的なネットワークを強化し実用性の高い「名古屋駅インター」の実現

## リニアインパクトの活用 ～リニアを基軸とした地域まちづくりビジョン等の検討状況⑨～

リニア中央新幹線を活かした  
地域活性化協議会

リニア開通のインパクトを最大限に活かす基盤の整備

- 岐阜県東濃駅と中央線美乃坂本駅との結節
- 名古屋駅へのアクセス強化
- 濃飛横断自動車道等の整備
- 東海環状自動車道の全線開通

リニア中央新幹線を活かした地域活性化『グランドデザイン』の骨子(案)(平成25年9月)の中で、リニアの効果を活かす交通基盤の整備について述べている。

### ■ グランドデザインの将来目標と戦略テーマ

#### 【将来目標】

『強靱な国土形成と活力ある次世代地域の実現』  
～リニア中央新幹線の開通とともに～

#### 【戦略テーマ】

日本の安全・安心を支える地域の形成

次世代の環境都市・健康都市の創造

新産業の創出と地域産業の活性化

リニアの効果を活かす交通基盤の整備

リニア開通のインパクトを最大限に活かす基盤の  
整備

地域間の連携促進する基盤の整備

- 岐阜東濃駅と中央線美乃坂本駅との結節
- 名古屋駅へのアクセス強化
- 濃飛横断自動車道等の整備
- 東海環状自動車道の全線開通

※組織概要： 2010年3月にリニア中央新幹線の早期建設と東濃地域に停車駅の設置促進を目的として設立されたリニア中央新幹線岐阜東濃駅設置促進協議会が前身。東濃5市(多治見市、土岐市、瑞浪市、恵那市、中津川市)及び可児市をはじめとする岐阜県内の商工会議所や商工会のほか、愛知県及び長野県の商工会議所や商工会で構成され、リニア中央新幹線の早期建設と岐阜東濃駅設置促進並びに岐阜東濃駅を活用し地域産業の活性化に資することを目的としている。会長は多治見商工会議所会頭。

# リニアインパクトの活用 ～『中部圏地域づくりフォーラム』の開催(平成26年2月18日)～

主催:国土交通省 中部地方整備局・中部運輸局

◇基調講演 「リニア中央新幹線と中部圏の新たな飛躍」  
中京大学総合政策学部 教授 奥野 信宏 氏

◇パネルディスカッション  
リニア開業に向けた地域づくりと地域の特性を活かした  
リニア3駅からの発展シナリオ  
[コーディネーター]  
中京大学総合政策学部 教授 奥野 信宏 氏



奥野教授による基調講演



約400名の来場者

## <パネリストの主な発言>

【名古屋市長 河村たかし 氏】

- ・名古屋が面白くなることによって、逆ストロー現象になる  
空前のチャンス
- ・名古屋駅をスーパーターミナル駅にすべく、駅前広場の  
再開発、わかりやすい乗換空間、ターミナルスクエア、  
高速道路のネットワークなど、使いやすい駅をつくっていく  
ことが必要

【飯田市長 牧野 光朗 氏】

- ・特徴的な地域ごとに拠点集約的な形で地域づくりを進める  
中で、それを道路や鉄道でネットワークしていくことが重要
- ・アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区に加えて  
いただき、この地域全体の産業クラスター計画の一翼を担  
っていきたい。

【中津川市長 青山 節児 氏】

- ・リニア駅への交通アクセス整備、他の交通機関との乗換、  
高速バスの充実などが必要
- ・リニア駅周辺は岐阜県の東側の新しい玄関口にしたい
- ・車両基地は、雇用、消費拡大、関連企業誘致、オンリーワン  
の観光資源としての活用など、大きな波及効果に期待



パネルディスカッション

【公益社団法人日本観光振興協会 中部支部長 須田 寛 氏】

- ・リニア開業効果を広範囲に波及させるためには、リニア駅  
から先の交通機関をうまく接続させることや駅周辺のまち  
づくりが重要
- ・リニア開業を見据えた新しい観光ネットワーク、ビジネス  
ネットワークをつくっていくことが必要  
(トライアングルの形が一番良い)

【一般社団法人中部経済連合会 専務理事 伊藤 範久 氏】

- ・中部へ新たな企業を呼び込み、産業をさらに発展させ、  
魅力を感じるような地域づくりをしていく必要がある
- ・リニア駅から他の交通機関による最終目的地までの  
アクセスが便利、乗り継ぎのしやすさなどが重要。

# リニアインパクトの活用 ～リニアを活用した中部地方の発展イメージ～

## 国際競争力の高い国土のエンジン地域の形成 (首都圏・近畿圏との濃密な連携・機能分担を核としたまんなか地域の発展)

首都圏・近畿圏と名古屋の一体化によるリニア大都市圏を形成し、  
国際競争力が高い産業集積地の強化、強靱な国土形成、国際交流の拠点、豊かな生活圏の形成を目指す

### 自治体・経済団体の 地域まちづくりビジョンにおける主要施策等

リニア大都市圏の形成／国際的なMICEの誘致促進／名古屋の都市再生／名古屋の底上げに伴う周辺地域への波及拡大等

リニアと東海道新幹線による重層的な交通連携軸の構築／陸海空の広域交通ネットワークの機能強化・相互連携／名古屋駅の交通機能結節性強化等

国内外からの誘客促進(昇龍道プロジェクト等)／首都圏マーケットの取り込み／新たな観光周遊ルートの形成／ニューツーリズムの促進・着地型旅行の活性化等

企業の拠点機能の立地促進／異業種連携による新作業の創出／テレワーク型就労形態の導入等

代替性の確保／サプライチェーンの重層化／広域防災拠点の整備／首都圏の中核機能の分散配置によるバックアップ体制の構築等

広域的コンパクトシティ構造の実現／二地域居住の促進／1ターンの促進等

### リニアを活かした 中部地方の発展方向

①世界に名だたる名古屋の  
中枢性の向上と拠点都市の発展

②広域交通ネットワークの  
結節性・相互連携性の強化

③国内外からの求心力を  
高める観光振興の促進

④新たな時代に対応した  
産業構造の厚みの増幅

⑤安全・安心な 中枢圏域の形成

⑥新たなライフスタイルの形成

# リニアインパクトの活用 ～リニアを活かした中部地方の発展方向①～

## ①世界に名だたる名古屋の中枢性の向上と拠点都市の発展

- ・首都圏・近畿圏と一体となり、リニア大都市圏を形成するとともに、名古屋における国際的なMICE (\*1)の誘致促進や都市再生、港・運河の親水空間を活用したアーバンリゾートエリアの形成を図り、名古屋の中枢性の向上を図る。
- ・また、名古屋の中枢性を高め、底上げすることにより周辺地域への波及効果の拡大を図る。

### 国土のエンジン地域の中枢を担う世界都市としての発展

- 名古屋駅におけるリニアおよびその他の交通機能結節性強化や、都市再生、港・運河の親水空間を活用したアーバンリゾートエリアの形成を目指す。
- 人・モノ・情報の集積により、拠点性を高め、国際的なMICEの誘致等を促進する。
- ものづくり産業のさらなる活性化による我が国経済の牽引地域として発展していく

### リニア大都市圏を形成する産業拠点都市としての発展

- 四日市および周辺地域において、拠点性の高い名古屋、周辺地域との連携と、関西地域との連携により、ともに産業拠点として発展していく

### リニアインパクトの北陸地域への波及

- リニアによる名古屋の中枢性の高まりとともに、高速交通ネットワークのさらなる充実により、リニアインパクトが北陸地域へ波及していく

### リニア中間駅を中心とした周辺地域の活性化 (観光振興、新産業の振興)

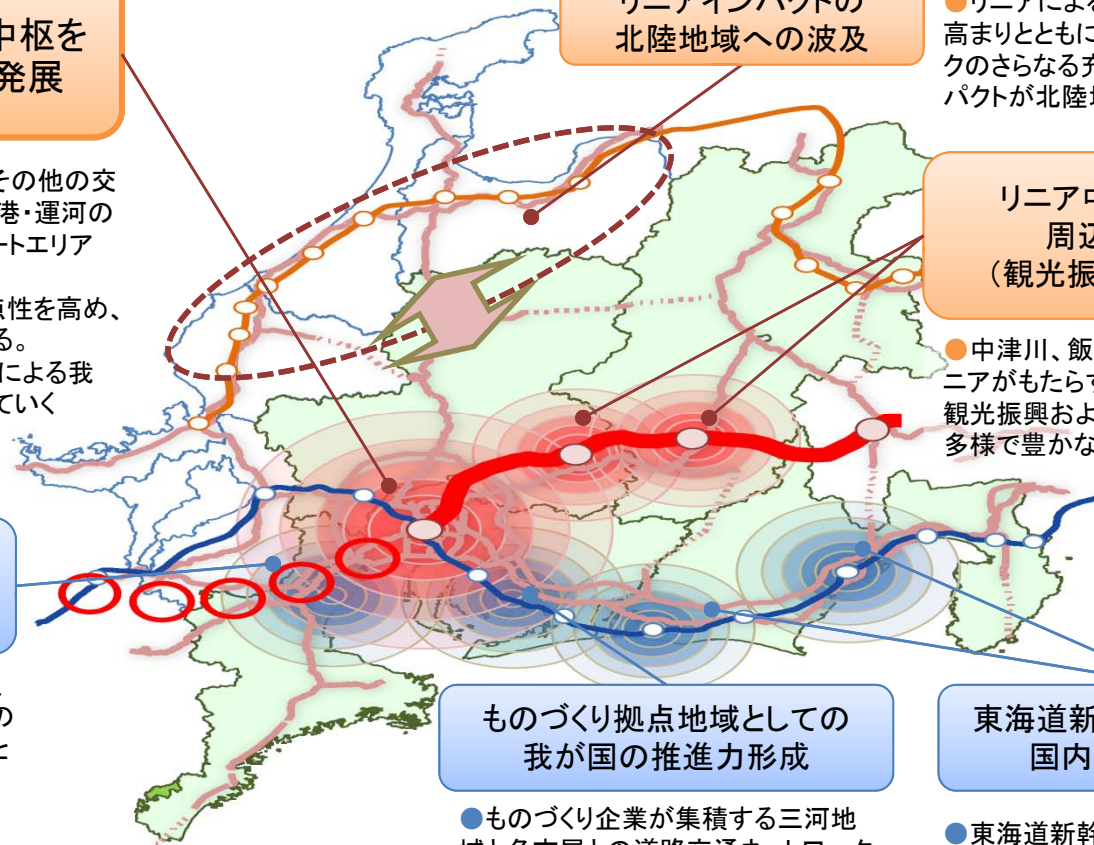
- 中津川、飯田および周辺地域は、リニアがもたらす新たな交流軸を活用し、観光振興および新たな産業の創出し、多様で豊かな生活圏域を形成する

### ものづくり拠点地域としての我が国の推進力形成

- ものづくり企業が集積する三河地域と名古屋との道路交通ネットワークの機能強化により、ビジネス交流の活発化を図り、ものづくり圏域としての強固な推進体制を構築していく

### 東海道新幹線を有効活用した国内外交流の活性化

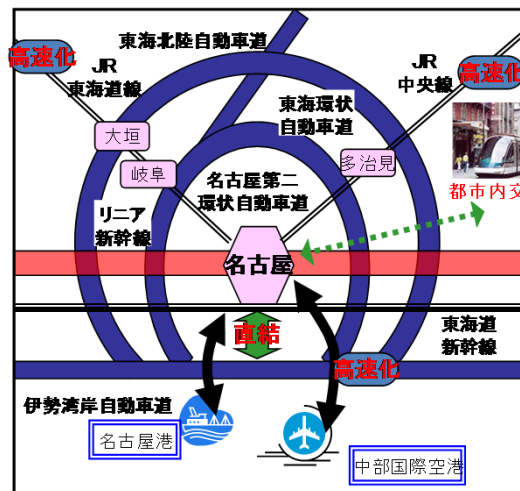
- 東海道新幹線のこだま、ひかりの増発により、東海道エリアの交流が活発化するとともに、リニアと連携した新周遊ルートの創出により、新たな広域観光交流圏域を形成する



(\*1) MICE: Meeting (会議・研修)、Incentive tour (報奨旅行)、Convention・Conference (国際会議・学会)、Exhibition (展示会) の総称

## ②広域交通ネットワークの結節性・相互連携性の強化

- ・リニアと東海道新幹線を有効活用し、重層的な交通連携軸の構築により、さらなる交流活性化を図る。
- ・陸海空の広域交通ネットワークの機能強化・相互連携および名古屋駅の交通機能結節性強化（高速道路、鉄道の接続、乗り換えの円滑化）により、中部が有する交通インフラのポテンシャルを最大限発揮する。

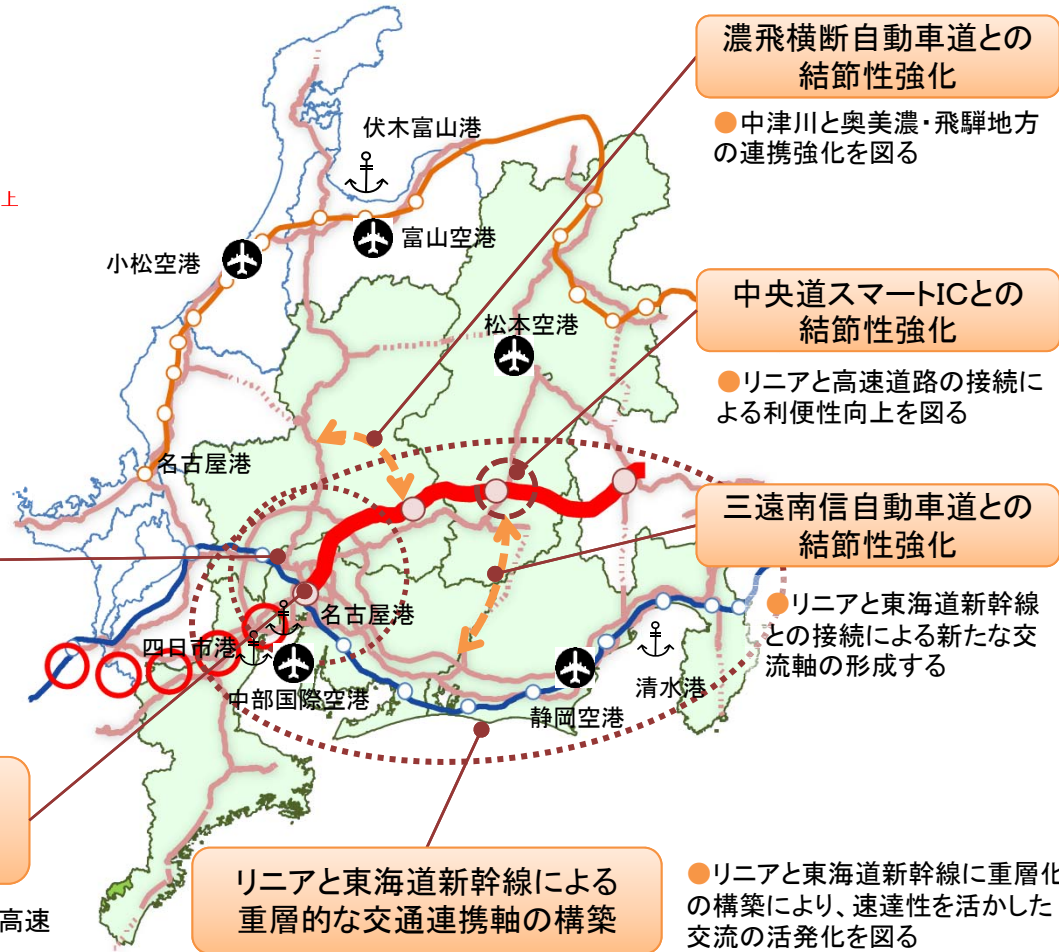


### 陸海空の広域ネットワークの機能強化・相互連携

- リニア、高速道路、空港、港湾のネットワークを効果的に活用しそれぞれの機能を最大限発揮し、連携を深めることにより、利便性の高い広域交通ネットワークを構築する

### 名古屋駅の交通機能結節性強化 (鉄道の乗換利便性強化、 高速道路との結節性強化)

- 名古屋駅の鉄道間の乗り換えの円滑化と高速道路との接続性を高める



### 濃飛横断自動車道との結節性強化

- 中津川と奥美濃・飛騨地方の連携強化を図る

### 中央道スマートICとの結節性強化

- リニアと高速道路の接続による利便性向上を図る

### 三遠南信自動車道との結節性強化

- リニアと東海道新幹線との接続による新たな交流軸の形成する

### リニアと東海道新幹線による重層的な交通連携軸の構築

- リニアと東海道新幹線に重層化の構築により、速達性を活かした交流の活発化を図る



# リニアインパクトの活用 ～リニアを活かした中部地方の発展方向③～

## ③国内外からの求心力を高める観光振興の促進

- ・リニア駅を拠点とした国内外からの誘客促進を進め、昇龍道プロジェクトのさらなる活性化を図る。
- ・リニアと北陸新幹線、東海道新幹線等を活用した周回型ネットワークの活用により、新たな観光周遊ルートの構築を図る。
- ・リニアの速達性を最大限活用し、リニア駅周辺の観光資源を活かしたニューツーリズム(\*2)をはじめとした着地型旅行形態の活性化・促進を図る。

リニア駅を拠点とした国内外からの誘客促進による昇龍道プロジェクトの活性化



●名古屋、中津川、飯田への速達性を活かした、リニア駅発着型の新たな観光ルートの造成や首都圏マーケットの取り込みによる、昇龍道プロジェクトのさらなる活性化を図る

リニア・北陸新幹線を活用した新たな観光周遊ルートの形成

●東海北陸道・北陸道・中央道・高山本線と、リニアと北陸新幹線の新たな高速鉄道で結ぶ、主要な観光スポットを効率よく周遊できる新たな観光ルートの形成を図る

首都圏マーケットの取り込み

●首都圏の日本人および訪日外国人の取り込みを図る

関西圏マーケットの取り込み

●関西圏・西日本の日本人および訪日外国人の取り込みを図る

ニューツーリズムの促進  
着地型旅行の活性化

●リニアの速達性と、リニア周辺地域の資源を活かした日帰り着地型旅行の活性化を図る

リニア・東海道新幹線を活用した新たな観光周遊ルートの形成

●リニアと東海道新幹線と、高速道路をバスやレンタカーで巡る新たな観光ルートの形成を図る

インバウンド促進

●昇龍道エリアのゲートウェイとしてのセントレアのインバウンド促進を図る

(\*2)ニューツーリズム: グリーンツーリズム、エコツーリズム、ヘルスツーリズム、産業観光等の体験型・交流型の新しい観光形態

④新たな時代に対応した産業構造の厚みの増幅

- ・リニアの速達性を活かし、企業の拠点機能の立地促進や航空宇宙産業等を活かした研究開発拠点化を進めるとともに、異業種連携による新産業の創出(次世代産業、農林水業のブランド化、6次産業化)を図り、新たな産業構造の厚みの増幅を図る。
- ・在宅とオフィスの相互勤務形態の実現を柔軟に対応するため、リニアの速達性を活かしたテレワーク型の新たな就労形態実現地域の形成を図る。

異業種連携による新産業の創出  
(次世代産業、農林水産業のブランド化、  
6次産業化)

- 農林水産資源を活かし、人的な交流や新しい技術の取り込みも活用し、異業種が連携した多様な新産業が創出できる地域を目指す

リニア沿線立地型の産業機能立地促進  
(航空宇宙産業等の研究開発、研修機能等)

- 首都圏からの速達性と当地域に根付いた航空宇宙産業をはじめとした産業技術を活かした研究開発、研修機能の集積の促進を図る



高速道路沿線立地型の  
新たな産業機能立地促進  
(製造機能・物流機能)

- 速達性を活用し、製造部門における国内外のビジネス交流の機会の拡大を図る

既存の産業集積を活かした  
さらなる高度化

- ものづくり技術にかかる人、情報、技術の交流促進を図る

首都圏への速達性がもたらす  
テレワーク型就労形態の導入による  
多様な働き方の実現

- 首都圏からの速達性を活かし、適宜ミーティングが出来る、弾力的な就労形態が実現可能な地域の形成を図る

<p>①社員のワークスタイルの多様化</p> <p>例) 自宅(在宅勤務)や外出・移動中(モバイル勤務)等</p> <p>[在宅勤務] 個人のワークライフバランスが向上し、多様な就業機会が実現するとともに、(企業にとって)人材の確保などが実現する。 [モバイル勤務] 営業効率の向上・迅速な顧客対応による顧客満足度の向上、オフィスの省スペース化が実現する。</p> <p>在宅勤務の例(一般的には週に1~2日自宅で仕事を)</p> <p>モバイル勤務の例(会社の他の事業所や取引先で仕事を)</p>	<p>②育児・介護と仕事の両立</p> <p>例) 自宅、公共施設等に併設したテレワークセンター等</p> <p>育児・介護と仕事が両立した生活が営める。</p>	<p>③SOHOによる起業促進</p> <p>例) 自宅、小規模事務所等</p> <p>自宅や小さな事務所等で事業を起こすことが容易になる。</p>
<p>④高齢者、障害者等の社会参加</p> <p>例) 自宅等</p> <p>移動困難者が自宅で仕事ができる。</p> <p>都市型拠点施設での勤務の例(駅やホテルのビジネスセンター等で出陣時モブスに仕事を)</p> <p>モバイル勤務の例(駅や車内でメールなどをチェックする)</p>	<p>⑤地方(農山漁村)での就業機会の拡大</p> <p>例) 自宅、旅館等</p> <p>自然豊かな地方に住んでも仕事を継続できる。長期休暇も取りやすくなる。</p>	

### ⑤安全・安心な中枢圏域の形成

- ・リニア、東海道新幹線、東名・新東名・中央道等、多重の高速交通インフラによる、まんなか地域の代替性を活用した、ものづくり企業等のサプライチェーンの重層化を図り、大規模災害時にも社会経済活動が停滞しない圏域を形成する。
- ・首都圏に集中している中枢機能を当圏域に分散配置し、バックアップ体制を構築するとともに、広域防災拠点を整備する等により、我が国随一の安全・安心で、安定した地域を形成する。

#### 広域防災拠点の整備

● 代替性を活用し、有事の際の復旧・復興の拠点となる広域防災拠点の整備を促進する

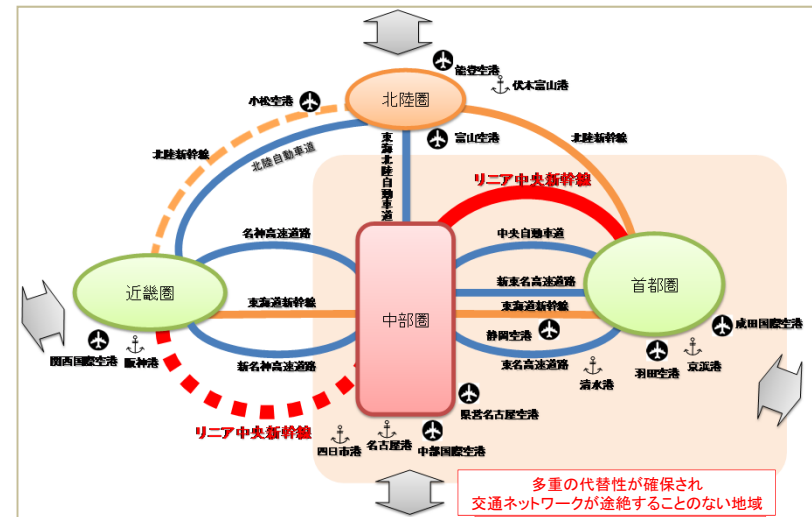


首都圏の中枢機能の分散配置によるバックアップ体制の構築

● 首都圏に集中する中枢機能を中部に分散配置させ、有事の際のバックアップ体制を構築する

#### まんなか地域の代替性確保

● リニア中央新幹線、東海道新幹線、東海道本線、東名高速道路、新東名高速道路、中央自動車道等による、多重ネットワークによる代替性の確保により、有事の際も途絶することのない、我が国随一の安全・安心で安定した地域の形成を図る



#### サプライチェーンの重層化

● 代替性を活用した、ものづくりを中心とした社会経済活動が停滞しない地域の形成を図る

### ⑥中部の新たなライフスタイルの形成

- ・中部の各都市がコンパクトシティ化を実現し、それらが利便性の高いネットワークで結ばれる、広域的なコンパクトシティ構造を形成し、住みやすさの先進圏域を目指す。
- ・ターン、Uターンによる若年層の取り込みによる活力向上を図るとともに、首都圏からのアクティブシニアによる二地域居住の促進等、新たなライフスタイルの実現可能地域を目指す。

#### 二地域居住の促進による アクティブシニアの取り込み

●リニアの速達性を活かし、気軽な往来による二地域居住等の、首都圏のアクティブシニアの新たなライフスタイルを担う地域への展開を図る

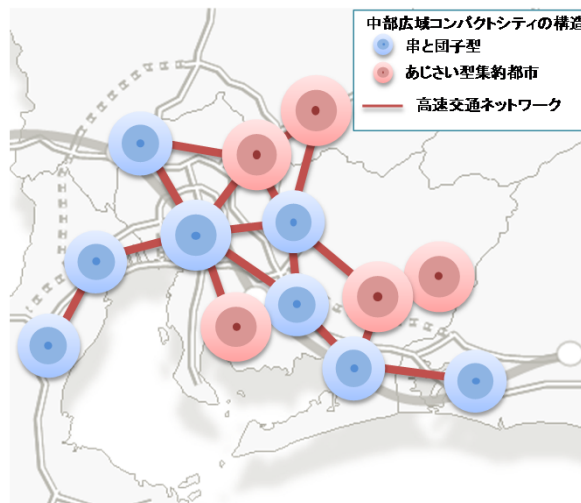


#### Iターン、Uターンによる 若年層の活力の取り込み

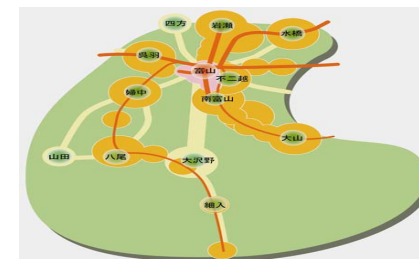
●中部に所縁のある若者や、首都圏在住の若者を取り込み、活力増進を図る

#### 中部広域コンパクトシティ構造の形成

●「串と団子型」、「あじさい型」の構造を基本とした各都市が、高規格幹線道路、鉄道等の高速交通ネットワークで結ばれたネットワーク構造の形成を図る

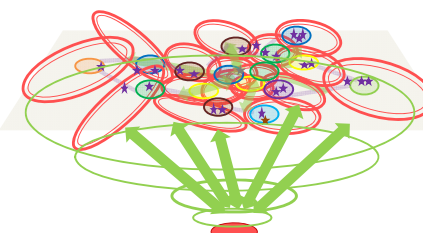


#### 串と団子型(例:富山市)



公共交通を串、徒歩圏を団子に見立て、公共交通の充実とともに、自家用車を使わない都市構造

#### あじさい型(例:北上市)



商店、医者、郵便局等の機能が揃う一次生活圏(小さな花)を確保し、それらがいくつも存在した(大きな花)都市構造

# リニア中央新幹線関連の『新まんなかビジョン』への反映イメージ

## 基本理念

### 中部地方を取り巻く情勢・課題

1. 中部地方を取り巻く情勢
2. 中部地方の特性
3. 中部地方の今後取り組むべき課題

### 求められる将来像と政策体系

#### 1. 概ね20年後に向けて念頭に置くべき社会情勢の変化

【リニアの視点】  
リニア中央新幹線効果の地域経済への波及

#### 2. リニアを活かした中部地方の発展方向

- ①世界に名だたる名古屋の中核性の向上と拠点都市の発展
- ②広域交通ネットワークの結節性・相互連携性の強化
- ③国内外からの求心力を高める観光振興の促進
- ④新たな時代に対応した産業構造の厚みの増幅
- ⑤安全・安心な中枢圏域の形成
- ⑥新たなライフスタイルの形成

#### 3. 中部地方の責務と役割

#### 4. 10～20年後を見据えた中部地方の将来像

まんなかで日本をリードする中部

#### 5. 10～20年後を見据えた政策体系

成果をより高める取り組みの概要

## 実行計画

### 10～20年後を見据えた具体的な目標

※5本の柱に掲げられた25の目標および関連する主な取り組み(短中長期)の記載

- I. いかなる災害にもしなやかで強い中部  
【災害に最も強い地域の構築】
- II. 活力溢れる中部  
【我が国経済の牽引】
- III. 出会い豊かな中部  
【国内外の交流・連携機能の強化】
- IV. 自然と共生の中部  
【世界有数の環境先進地域への挑戦】
- V. 住み続けたいくなる中部  
【最も暮らしやすい地域の形成】

#### 【リニアの視点】

- ①世界に名だたる  
名古屋の中核性の向上と拠点都市の発展
- ②広域交通ネットワークの結節性・相互連携性の強化
- ③国内外からの求心力を高める観光振興の促進
- ④新たな時代に対応した産業構造の厚みの増幅
- ⑤安全・安心な中枢圏域の形成
- ⑥新たなライフスタイルの形成

### 新まんなかビジョンが創り出す将来イメージ

※9つのエリアごとに、10～20年後を見据えた中部の将来像を具現化するための事業等を記載

- ①中部全体で目指す地域づくり ← 【リニアの視点】 リニア中央新幹線による国土の新たな発展
- ①駿河湾沿岸から長野県東部を結ぶ地域
- ②南信から三遠を結ぶ地域 ← 【リニアの視点】 リニアに接続する都市間交通ネットワークの整備
- ③名古屋都市圏一帯を取り巻く地域 ← 【リニアの視点】 リニアによる世界最強都市圏誕生に向けた取組
- ④東海と北陸を結ぶ地域 ← 【リニアの視点】 リニアに接続する都市間交通ネットワークの整備
- ⑤東海と近畿を結ぶ地域 ← 【リニアの視点】 リニアに接続する都市間交通ネットワークの整備
- ⑥伊勢湾・三河湾流域
- ⑦富士山麓と伊豆半島、丹沢周辺を結ぶ地域
- ⑧伊勢と紀伊半島中南部を結ぶ地域
- ⑨長野と飛騨・奥美濃、北陸沿岸を結ぶ地域

成果をより高める取り組み(推進体制、フォローアップ等)の詳細

# 前回まんなか懇談会のご意見および対応 ( 前回 : 第21回 平成25年2月18日開催 )

## 前回まんなか懇談会の主なご意見および対応

主なご意見	対応
<p>① ○将来の展望、長期的な視野に立った意見については、勢いのある表現にする。持続性だけでなく、発展性を取り上げるべき。 ○国際的な視点で満足のできるインフラであるべきであり、選択と集中、重点的な施策が必要となる。 ○企業の活力と個人のQOLを向上することが究極のゴールである。</p>	<p>表現の見直しを実施 1. いかなる災害にもしなやかで強い中部【災害に最も強い地域の構築】、2. 活力溢れる中部【我が国経済の牽引】、3. 出会い豊かな中部【国内外の交流・連携機能の強化】、4. 自然と共生の中部【世界有数の環境先進地域への挑戦】、5. 住み続けたくなる中部【最も暮らしやすい地域の形成】(資料1・p4)</p>
<p>② 5つの柱のタイトルは、現代的な表現にし、国民の関心を高める。</p>	<p>発展性については、「中部の責務と役割」において、災害への対応、国際化、暮らしやすさについて言及するとともに、選択と集中の観点から、9つの地域ごとに重点的に取り組む施策を明示する。(資料1・p3、p8～)</p>
<p>③ 昇龍道プロジェクトを活かしつつ、連携が緊密になるようにしなければならない。リニア中央新幹線も地域連携に非常に役立つ。価値を見直す必要がある。</p>	<p>リニア中央新幹線、昇龍道プロジェクトについては、今後10～20年の長期的な展望にたち、中部全体および9つのエリアの中で価値および関わり合いを整理する。(資料1・p6～)</p>
<p>④ リニアについて、関心が高い周辺市町村を含めた広域連携に関する議論が弱い。</p>	<p>リニアを基軸とした中部の地域づくりの方向性を整理し、発展の方向性を整理している。(資料2・全般)</p>
<p>⑤ 施策の方向について、東京に過度の集中が無いような他の地域とのバランスを図り、中部は一定のバランスの取れた地域として発展させる。また、東西と南北の交通軸のバランスを取るべき。さらに、ソフトとハードのバランスを図り、ものづくりについても、デザインのようなソフトも重視し、精神的な観点も加える必要がある。</p>	<p>5本の柱の概念、各柱の目標、具体的な取組の中で、本文にて対応する。</p>
<p>⑥ 高齢者、女性の雇用問題、多文化共生・外国人の労働者の受け入れの問題への対応が必要。</p>	<p>5本の柱の「3. 出会い豊かな中部」の具体的な目標において、「社会基盤整備で都市機能を高度化」および「中山間地や農山漁村の地域力の向上」のなかで“交流・連携による自立を促す”ことについて言及する。(資料1・p4)</p>
<p>⑦ 中部の中枢は名古屋だということを強調、地球温暖化、エネルギー問題への対応が必要。</p>	<p>9つの地域のうち、⑧については、「地形・気候などの風土」と表記する。⑨については、中部縦貫自動車道、濃飛横断自動車道の影響性を考慮し、これらが経由する奥美濃地域にも焦点をあて、地域名を「長野と飛騨・奥美濃、北陸沿岸を結ぶ地域」とする。(資料1・p11) 北陸新幹線の重要性は、「中部全体で目指す地域づくり」の「高速交通ネットワークを活用した連携イメージ」の中に位置付けるとともに、「長野と飛騨・奥美濃、北陸沿岸を結ぶ地域」にて重要性を言及。(資料1・p6、p11)</p>
<p>⑧ 自立の問題については、個々で単に自立するだけでなく、お互いに多くのものを相互補完する中から、自立を見出すべきではないか。</p>	<p>9つの地域の特徴からコンセプトを導出し、地域ごとの特徴が表現できるように留意するとともに、一覧表にて整理。(資料1・p8～)</p>
<p>⑨ 風土に加え「気候」という言葉を入れるべき、飛騨に奥美濃を追加するべき、北陸新幹線について念頭に置くべき等、言葉のニュアンスについても検討をお願いしたい。</p>	
<p>⑩ 9つの地域ごとにポイントを集約し、冒頭に一覧表を付けてもらえると判りやすい。地域概要、重点対策として何をするか、配慮すべきことを整理する。</p>	

## 第 21 回 国土交通中部地方有識者懇談会 議事要旨

日時：平成 25 年 2 月 18 日（月）13:30～15:00

場所：KKRホテル名古屋 3 階 簡の間

### 議事

#### I. 新まんなかビジョン

1. 5 つの目指すべき価値づくりの方向性への反映（案）について
2. 9 つの各地域における将来イメージ等の見直し（素案）について

#### （須田座長）

- ・前回はこれまでのビジョンについて、委員の皆様方の意見を承り、まとめさせていただいた。
- ・例えば、災害対策については 5 つの柱の中で、他の柱とは性格の違う基本的なベースになるようなものとして位置づけた。官民の連携や地域の競争力の強化についても、いただいた意見を踏まえたものを事務局からお示しいただき、再度ご意見をいただいて、骨子を整理させていただきたい。その結果をまとめ、次回の会議に諮りたい。

#### （奥野委員）

- ・参考資料 3 の P9 に 50 年便益が 10.7 兆円とあり、半分強が時間短縮効果と駅周辺の間接的な効果のフローがあると思うが大雑把なところで教えて頂きたい。

#### （河上委員）

- ・目指すべき将来の姿の中の「災害に強い中部」で、5 つの具体的な目標が掲げられている。「既存の社会資本ストック機能を持続」とあるが、もう少し積極的な表現に改めたい。
- ・熊野川水系でダムの上砂滞留による機能低下と海岸侵食の問題があるが、ダムの土砂を利用して海岸侵食対策に使うといった戦略的な社会ストックの維持という視点があってもいいのではないか。
- ・元気な高齢者の方や女性の活躍できる環境づくりや所得控除といった、税の仕組みを段階的なマイナス部分が解消されれば 1 年中長く働けてプラスになるため、官民挙げて活動できる仕組みを作っていく必要がある。
- ・若い世代は雇用されたい者が増えており、起業できる環境づくりや支援が必要である。
- ・資料 2 の P10 「伊勢と紀伊半島中南部を結ぶ地域」、【地域の日指すべき将来イメージ】に、「気候」という言葉も入れていただきたい。熊野市では、気候を活かしたスポーツ集客交流を図ろうという動きがある。中部の多様な気候をうまく活用する事も視点としては必要ではないか。

#### （日置委員）

- ・北陸新幹線の開通がこの地域にどのような影響を及ぼすか、効果をどう取り込むかという

視点も必要である。富山、金沢、福井へ北陸新幹線が伸びていき、この地域との結びつきをインパクトとして捉える必要がある。

- ・中部縦貫自動車道が、福井-岐阜-長野というルートと結ぶことから、9 つの地域の⑨「長野と飛騨、北陸沿線を結ぶ地域」【広域的な観点】に、福井を追加したい。
- ・名称についても「飛騨」だけでなく「・奥美濃」あるいは「・郡上」と表現していただきたい。

#### （中村委員）

- ・今年一番のメインイベントは伊勢神宮の第 62 回式年遷宮である。1000 万人が伊勢志摩に押し寄せるが、道路の整備は国道 167 号以外に、伊勢湾の循環道路等や外宮と内宮が離れているので交通渋滞が問題になっているおり完全とは言えない。式年遷宮に対する対策を十分にやっていきたい。
- ・昇龍道について、三重県の方から岐阜そして能登半島にわたるがバランスに配慮してもらいたい。
- ・インバウンドについて、従来の中国、台湾だけではなく、現在三重県はインドネシア、ベトナム、インドが増えているのでターゲットを変えていかなければならない。

#### （須田座長）

- ・緊急的な課題の指摘であった。式年遷宮に向けた道路渋滞問題は、今から大きな工事はできないが、道路の使い方の工夫で対応できないか。
- ・昇龍道プロジェクトについては、バランスを取ってやっていくという話であった。既にプロジェクトが進んでいるので、念頭においてご配慮いただきたい。

#### （後藤委員）

- ・5 つの方向について、「災害に強い」というのは大前提の問題だが、災害対策はコストがかかるため、優先順位を付け対策していくことが大事なことである。
- ・将来、日本国内でのものづくりが強い力を発揮でき競争力が持てるのかと考えると、難しい点があるのが実感である。デザイン、ファッション性、センスの良さといったソフトの部分での力をつけ、イタリアやフランスのようなイメージの産業構造を作っていく必要がある。
- ・5 つの課題では、3（交流・連携）、4（環境・景観）、5（暮らし）というところをさらに強化し、ウエイトをかけていく必要があるのではないだろうか。
- ・交流が活発な中部として、県内 162 キロが開通した新東名、静岡空港、県内の 3 つの港、それぞれを強化することを考えている。新東名は、通過、通行だけでなく、一般道からも利用できる新東名の SA における 6 次産業、内陸フロンティアという面での期待ができる。
- ・東西軸だけでなく南北軸も重要。伊豆縦貫自動車道、中部横断自動車道、三遠南信自動車道の計画を早く実現し、南北と東西がうまく組み合わせられるようにしたい。
- ・富士山の世界文化遺産登録、伊豆のジオパークの問題、南アルプスの開発の問題等、将来性あるテーマを抱えている。日本のこれからの生き方を考えると、物質優先の価値観



は限界にきている。精神的なもののやゆとりなど、スローライフに価値観を見出すような構造に変えていかなければならない。環境・景観について静岡県の場合は、もっと進める必要がある。

- ・暮らしについて、地元に対して愛着を持てることが重要。静岡県、静岡市、浜松市、愛知県岡崎市などが協力して、2015年の徳川家康公顕彰400年祭に向けて取り組んでいるが、「過性の祭りとして終わらせないよう「徳川みらい学会」を立ち上げ、江戸時代265年の平和国家を世界へ発信していきたい。
- ・外国人の労働力の問題は無視できない。多文化共生について一段の強化が必要である。
- ・東京一極集中になり過ぎているため、関西の復権を真剣に考えないとこの中部も将来がない。バランスを取る政策が必要になってくる。

#### (奥野委員)

- ・今の国土形成計画の一番大きな特色は広域連携である。9つの地域の全体を跨ぐような広域連携について少し弱いと思う。昇龍道では、感覚的に広い範囲の広域連携のイメージとして出てきた。今後検討される国土強靱化では、中部圏広域でのハードだけでなく、ソフトでの連携が大事であり詰めて頂きたい。
- ・名古屋の中核都市として、機能強化というところが都市の魅力の中での重要ポイントとなる。
- ・リニアについて、名駅周辺がどう受け止めるか既に議論が始まっている。周辺市町村も関心が次第に高まってきているので後押しについても考えていただきたい。また、中部圏全体のリニア対応の広域連携による議論が非常に弱いと感じる。

#### (水谷委員)

- ・中部は十分発展をしつづけたので、守りの姿勢に入ってきているのではないかという懸念を持っている。維持しようにも発展性を維持しないことには維持もできない。
- ・国の生産力は、維持向上していかなければいけないと思う。ものづくりは重要であり民間に任せ、役所は社会資本の充実を行ってきた。
- ・社会資本の整備は平等化に進み全国各地に空港、高速道路を建設してきたが、平等化に主眼を置いたために国際的な地位が落ちている。全国的に見て社会資本整備を中部に集中させるべきであろうと思う。
- ・社会資本の老朽化対策を強調しなくてはいけない。
- ・中部は日本を支え世界に貢献してきていることから、これを続けていくにも、より素晴らしい世界一のインフラを造っていくという目標が必要だということを強調したい。

#### (林委員)

- ・資料1のP3について、名前の付け方が時代性に乏しいのではないか。超高齢化社会により社会が弱っている、一方、自然が猛威をふるっているため、活性化しなければならないといった基本条件が変わってきている。  
例えば、「愛着もてる中部」とあるが、「地域の絆の再生」「絆・交流のある社会」といったニュアンスをタイトルにするとういのではないか。

- ・交流が目的でなく何のために交流するかが必要である。異なる価値をもつ他の地域と交流する。都市と農村、日本と他国で人々の心を通わせるというのが究極の目的であり、ベースとして経済交流が非常に重要となることから目的をタイトルにはどうか。
- ・「活力ある中部」については、産業と文化といった両方の活力が必要であり、そのニュアンスが必要である。
- ・企業の活力と個人のQOLを向上するというのが究極のゴールとしてあり、その結果、地域が尊敬されることになる。そのインフラストラクチャー、空間を作る部分が今回の会議の役割ではないか。

#### (東委員)

- ・地球温暖化による災害、問題が起きているため、資料1、P4の「災害に強い中部」に地球温暖化が入ってきていいのではないか。
- ・【課題に対する主な取り組み】で「粘り強さを発揮する構造物の検討」とあるが、今後、適切な盛土、自然の環境と構造物、植生といった自然植生、復元を含めた空間の工夫を視野に入れて欲しい。
- ・P6の目標①「ものづくりに不可欠な水などの安定確保を図る」について、エネルギーの安定確保がものづくりに大変重要である。水とともにエネルギーの安定確保という点を加えてはどうか。
- ・P8の目標②「社会基盤整備で都市機能を高度化し、各地域の自立を促す」、目標③「中山間地や農山漁村の地域力を向上し、各地域の自立を促す」、いずれも各地域の自立とあるが、「あじさい型の都市づくり」は個々の地域の自立ではなく、交流・連携し補完し合い、支え合う事によりエリアとしての自立が生まれてくる連携・交流に伴った自立を促す記述に変えてはどうか。
- ・目標②「社会基盤整備で都市機能を高度化し、各地域の自立を促す」について、社会基盤整備の新たな再生に伴う都市機能の高度化が求められていることを明確に書いたらよいと思う。
- ・P11の景観や環境に関する点を変えていただいたことでよくなっている。
- ・「暮らし」で、豊かで多様な自然と産業、歴史に恵まれた中部に生きることの幸せを感じ、満足度が持てる地域づくりを進めていければと思っている。集約したまちづくりが適切なのか再検討が必要と思われる。
- ・資料2の①「駿河湾沿岸から長野県東部を結ぶ地域」エリアについて、駿河湾ビジョンでは湾が一つで港の機能や海洋環境が考えられている。この図では伊豆半島が欠けている。伊豆半島、富士山も含め、中山間地と海洋環境、沿岸一帯の環境形成が国土を強くしていくことに繋がることから、もう一度改めて、エリアについて再検討を願いたい。

#### (宮崎委員)

- ・国際競争力とは「いいものを、価格を安く、早く安定的に供給すること」であり、「物流の効率化」が競争力の強化につながる。中部地域は、物流ネットワークの整備を相対進めて頂いており感謝しているところがあるが、競争力強化のためには、高速道路を含むネットワークの整備をさらに進めていただきたいと思っている。

- ・災害に強い中部が、第一優先とされたことは大変賛成である。民間企業も南海トラフ巨大地震に対するBCM（事業継続マネジメント）の策定に追われている。是非、ハードだけではなくソフトもあいまって、中部が一番災害に強い地域だと自信を持って言えるように官民で連携して取り組んでいきたい。

#### （山本委員）

- ・資料1のP12「暮らし」において「愛着のもてる中部」としているが、「効率的な集約化」というイメージがある。住む人がその地域に対して魅力を感じ、外からも人が集まってくるそういう視点が非常に大事だと思う。さもないと、東京一極集中、中部圏から人が外へ出ていってしまうことになる。
- ・資料1のP4～5について、安全・安心面あるいは技術を伝えるために、安心・安全を支える人材の育成が重要である。

#### （小出委員）

- ・資料1のタイトルは、一般の人の興味を引くような味のあるものがよい。例えば、「愛着のもてる中部」は「故郷の香る中部」としてサブタイトルで各論を出せばよい。「自然と共生する」は「海と山と生きる中部」。「交流が活発」は「異文化とも出会える中部」。「活力ある中部」は「若さを支える中部」、「若さと力の中部」。「災害に強い中部」は「郷土を守る中部」等。
- ・都市というのは、そこで生まれた人間が死ぬまでに全ての都市施設を味わい尽くせる都市というのが一番良いと思う。中部に住んでいる人の人生に、どれだけ寄り添えるかという視点を入れてもいいのではないかな。
- ・リニアについてはビジネス面では非常に戦略的なインパクトを持っているが、限られた人の利用にとどまり、一般の人たちは利用しにくいのではないかな。乗車料金の壁も含め、一般の人や沿線にどのようにプラスに作用していけるかという視点が欠けている。
- ・名古屋に住んでいる人がどの地域が一番近く感じるかというサイコディスタンス（心理距離）を調べ、日本列島を再構築したことがある。時が経つと変化していくと思うが、交流連携と密接に絡むので重要な視点ではないかな。

#### （水尾委員）※事務局代読

- ・社会資本整備の経費、予算等の削減に対しては評価されてきたが、既に限界を超えてきており、目先の評価を得るための経費削減については反省が必要なのではないかな。犠牲者が発生しないと国民的議論にならないという考え方を変えて、新規事業への投資と同様に維持管理へも費用をつぎ込むべきである。
- ・中部がものづくり産業の中核という地位を今後も維持していくための条件としてエネルギー問題は重要であるが、外国の失敗を手本に、日本では同じ失敗をすることは避けるべきである。また、再生可能エネルギーの限界を正確に把握した上で、エネルギーの確保が重要ではないかな。
- ・北陸の技術を中部のものづくりに活かすための縦の連携が必要である。

#### （須田座長）総括

- ・『これからの施策の方向』、『将来の展望、長期的な視野に立った意見』、『表現の仕方』についての意見があった。
- ・『これからの施策の方向』についての意見は、まず3つのポイントがある。1つはバランス、2番目は連携について、3番目は雇用問題である。
- ・1つ目の『バランス』とは関東と関西との間のバランス、東京に過度の集中が無いように他の地域とのバランスをとる。中部もその中でそれらと一定のバランスを保って、発展させていかなくてはいけない。また、中部での東西と南北の交通軸のバランスを取るべき。
- ・次にソフトとハードのバランス。ものづくりについてもデザインのようなソフトも重視しなければならず、同時に価値基準が物質優先になっているため、もう少し精神的なものも入れたものを考えていく必要がある。
- ・2つ目の『連携』について地域を9つに分けているが、昇龍道プロジェクトでは地域が連携するような施策が取られおり、昇龍道プロジェクトを活かし連携が緊密になるようにしなければならない。リニアも地域連携に役立つという事であり、連携という視点から、もう一度その価値を見直していく必要がある。
- ・3つ目の雇用問題について、高齢者、女性の雇用がこれからの問題である。また、多文化共生の問題、外国人労働者の受け入れの問題に対し、避けては通れない時期が来ており総合的な雇用対策を考えていく必要がある。
- ・『将来の展望、長期的な視野に立った意見』については、持続だけでなくもう少し勢いのある表現にしてはどうか。守りに徹してはならず持続し続けるためには、持続性だけでは不十分であり、発展性を取り上げるべき。特に、国際的な視点に立ち満足のできるインフラでなければならない。そのためには選択と集中、重点的な施策が必要となる。
- ・『表現の仕方』について、5つの柱のタイトルは、現代風に「絆の再生」、「若さと力の中部」、「異文化の出会いの中部」等、既存のタイトルも必要であるが、副題とするか、キャッチフレーズ的なものを主題とするか。2つのタイトルがあっても良い。ビジョンの価値を高め、国民的関心と呼ぶためにも新しいタイトルも必要である。
- ・中部の中枢は名古屋だと強調すべきである。また、地球温暖化やエネルギー問題についての意見があった。
- ・自立の問題については、お互いに持っているものを相互補完する関係の中から自立を見出すべきではないかな。
- ・「気候」という言葉、飛騨に奥美濃を追加、北陸新幹線を念頭に置くべき等、言葉のニュアンスについてもご意見を参考にして頂きたい。
- ・私見であるが、9つの地域ごとに「地域の課題への対応」、「地域の日指すべき将来イメージ」、「広域的な観点で更なる検討を重ねるプラン」という項目が書かれているが、理解しやすくすることから、それぞれポイントを集約し冒頭に一覧表を付けてもらえると判りやすい。地域概要、重点対策として何をやるか、配慮すべきことは何か、この3つを記載した資料の作成を願いたい。

以上

# リニア中央新幹線の開業に伴う効果等 (前回資料より抜粋)

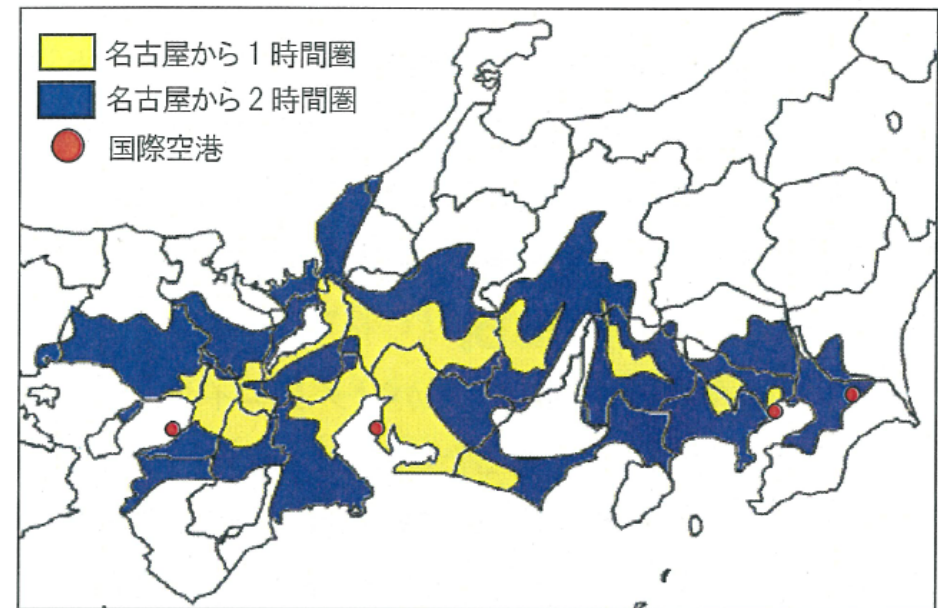
# 名古屋から見た広域的な時間圏の変化

- 名古屋からの1時間圏(黄色)は、東海4県+滋賀県の範囲であったものが、長野県、山梨県、神奈川県、東京都へと範囲が拡大
- 2時間圏(青色)は、千葉県まで大幅に拡大し、我が国の3つの国際拠点空港が入る
- 更に、名古屋~大阪間が整備されれば、西日本方面への2時間圏は兵庫県南部をカバー

【リニア開業前】



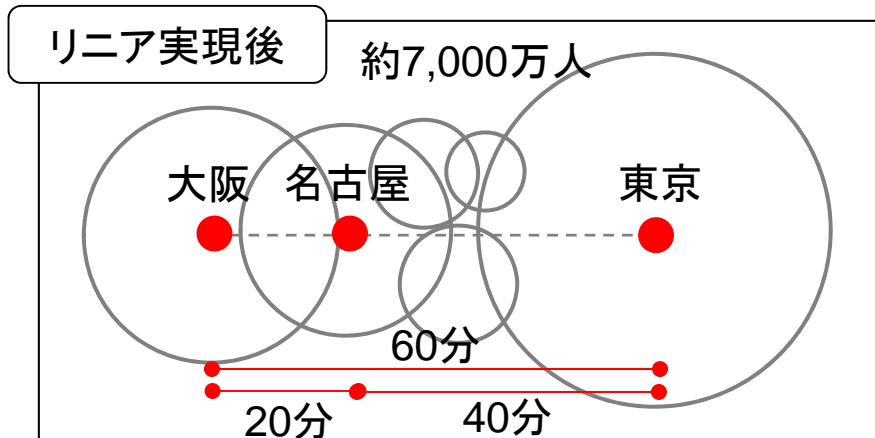
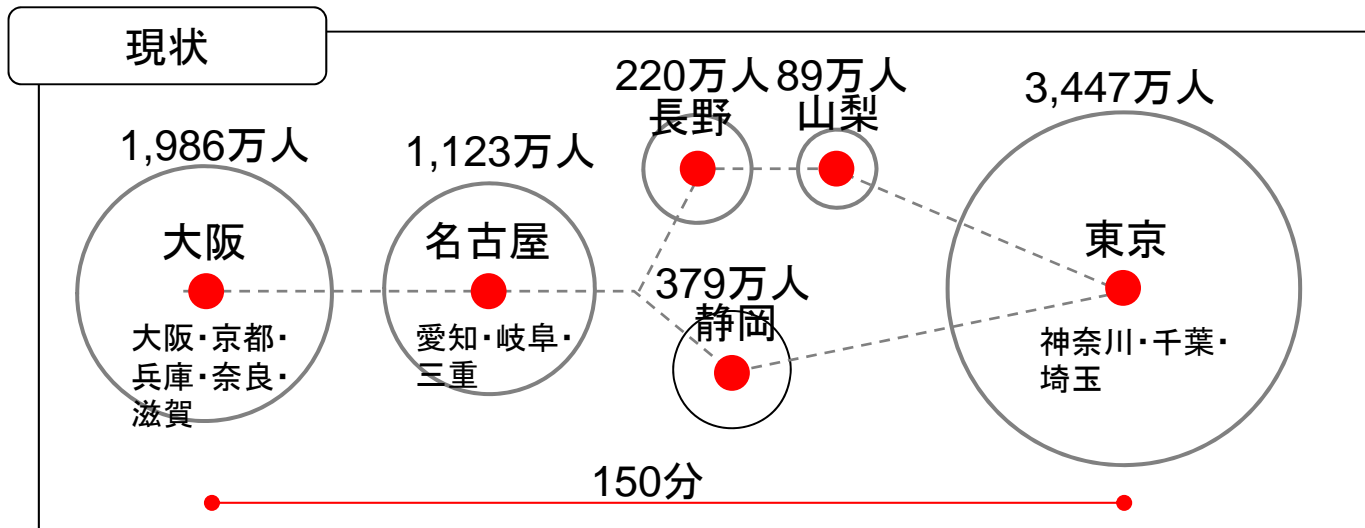
【リニア開業後】



出典:名古屋都市センターNUILレポート No.008「リニア中央新幹線と名古屋の未来」

# 大交流リニア都市圏の出現

- リニア中央新幹線が品川～大阪間で全通すると、東京～名古屋～大阪間の所要時間は、現在に比べて半分以上縮まり、概ね60分圏内に三大都市圏が結ばれる
- 三大都市圏の一体化と見ることができ、7千万人規模の「大交流リニア都市圏」が出現
- これほどの規模の大都市圏は世界に類例がなく、日本経済のエンジン地域として牽引力が高まることに期待

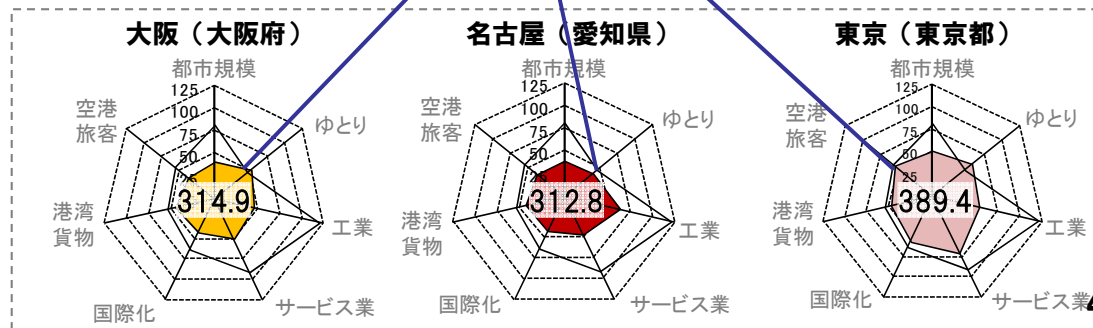
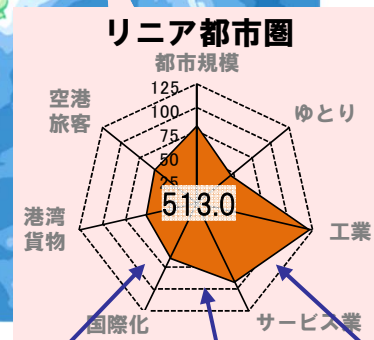
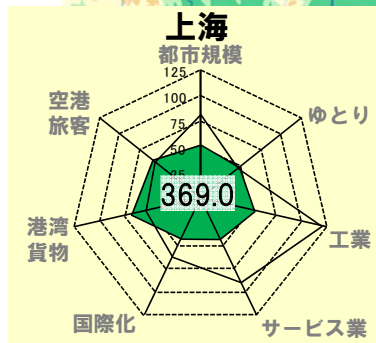
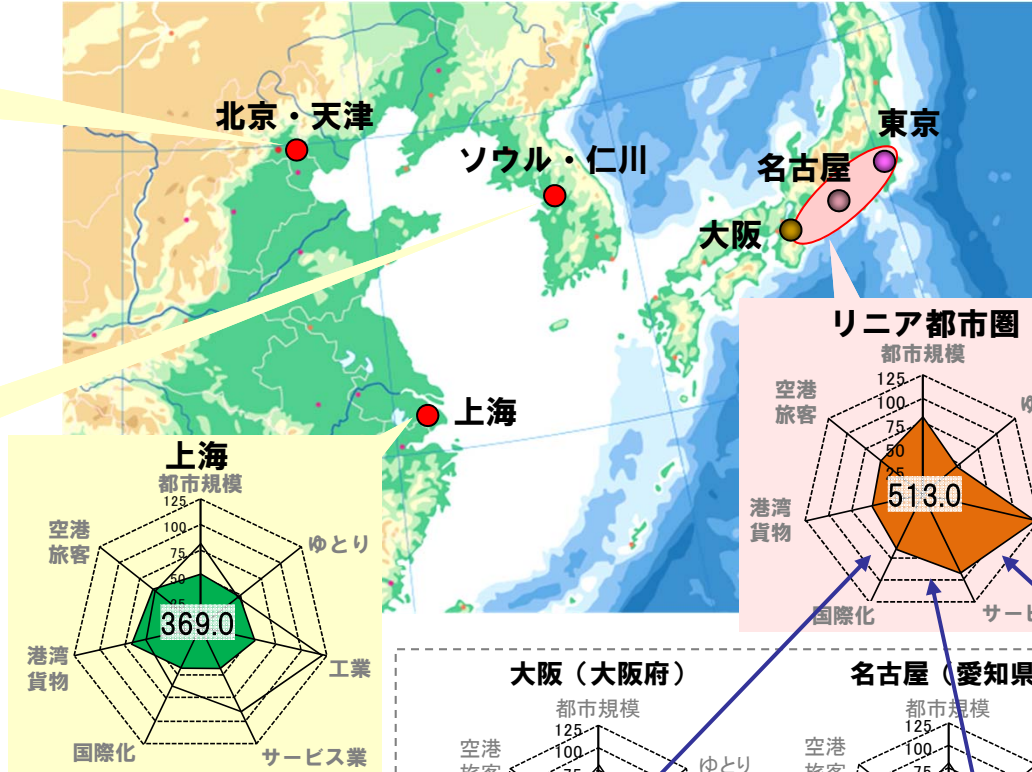
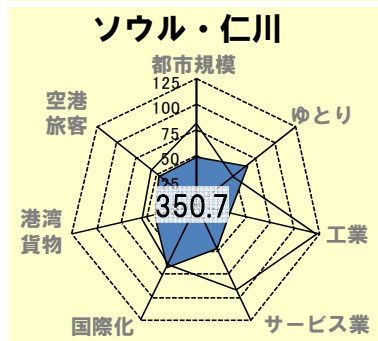
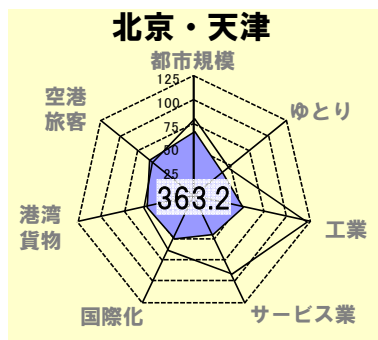


※「大交流リニア都市圏」は「中央新幹線沿線学識者会議『リニア中央新幹線で日本は変わる』2001年8月」を参考に、東海道・中央新幹線の15都府県を想定した。  
 ※人口はH17国勢調査(速報値)。

出典:リニア中央エクスプレス建設促進期成同盟会

# 国際競争力強化の可能性

- 我が国の近隣諸国には、成長著しい大都市圏が存在
- 各大都市圏は、人口規模が大きく、大規模な空港・港湾が整備されており存在感上昇中
- 我が国の三大都市圏があたかも一体化されれば、総合力によって近隣諸国の大都市圏との比較優位性が高まる
- 日本の国際競争力を高める上で、三大都市圏の相互連携は必要でリニアがこれを可能に

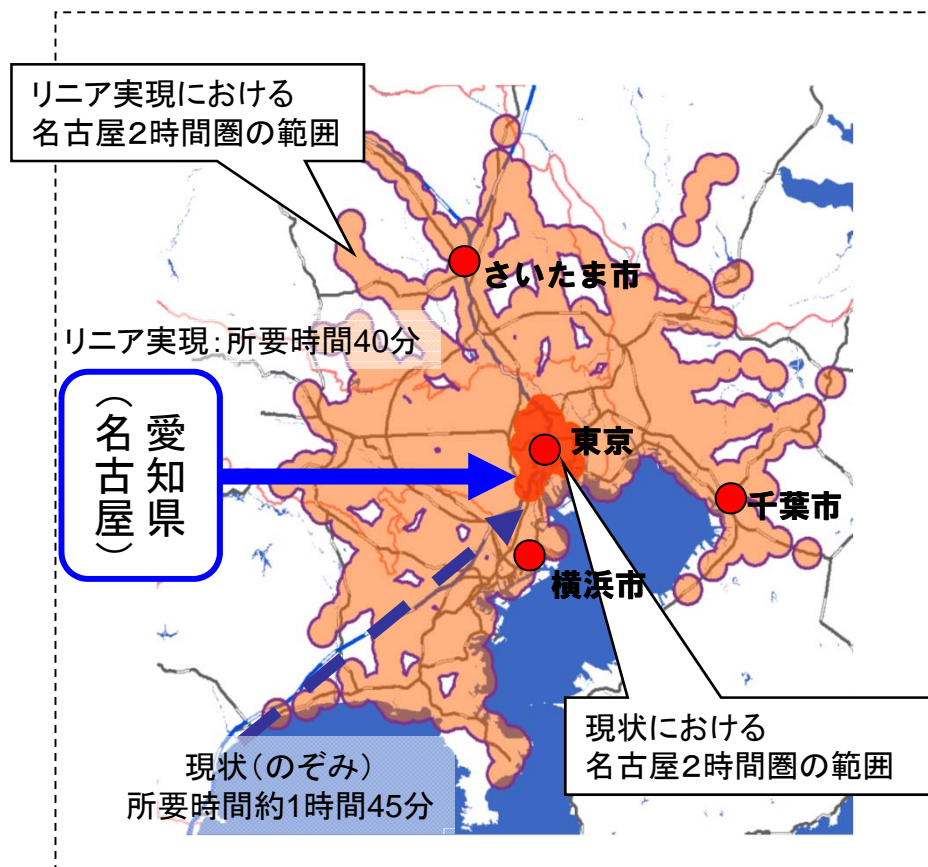


・アジア6都市(北京・天津、上海、ソウル・仁川、東京、名古屋、大阪)における各指標について、平均値が50、標準偏差が10となるように標本変数を規格化して、6都市における都市力の相対的な比較を行い図示しました。  
・各都市の数値は、各指標の偏差値の合計を示します。

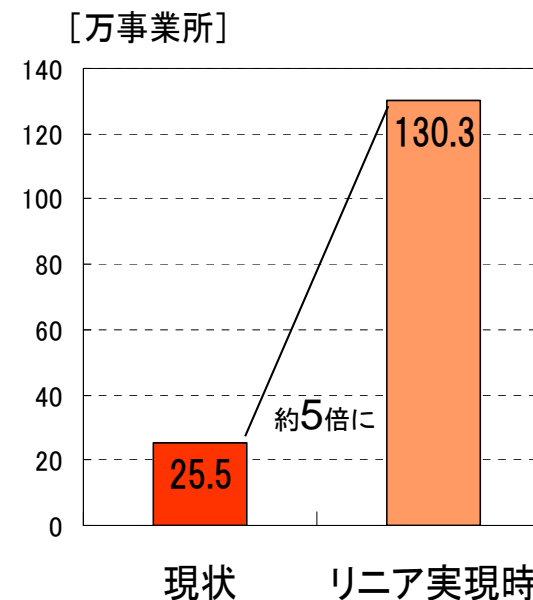
都市規模 : 人口(国勢調査、JETRO資料)  
ゆとり : 人口密度(国勢調査、JETRO資料)  
工業 : GDP第2次産業(県民経済計算、JETRO資料)  
サービス業 : GDP第3次産業(県民経済計算、JETRO資料)  
国際化 : 国際コンベンション会議件数(JNTO資料)  
港湾貨物 : 国際コンテナ取扱量(Containerisation International Yearbook 2007)  
空港旅客 : 国際旅客数(Airport Council International)  
以上より、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社にて作成

# 名古屋から見た東京方面への時間圏の変化

- リニアを利用した場合の名古屋からの2時間圏は、現在(のぞみ号利用時)の都心3区から大幅に拡大され、千葉市、さいたま市、横浜市など1都3県の県庁所在都市が範囲内に
- 2時間圏内に立地する事業所数は約5倍に拡大
- 名古屋都市圏と首都圏との一体化が進み、多様な交流・連携が活性化され、相互連携や補完の可能性が高まる(ビジネス面、暮らし・観光面での結びつきが強まる可能性)



■ 名古屋2時間圏の事業所数



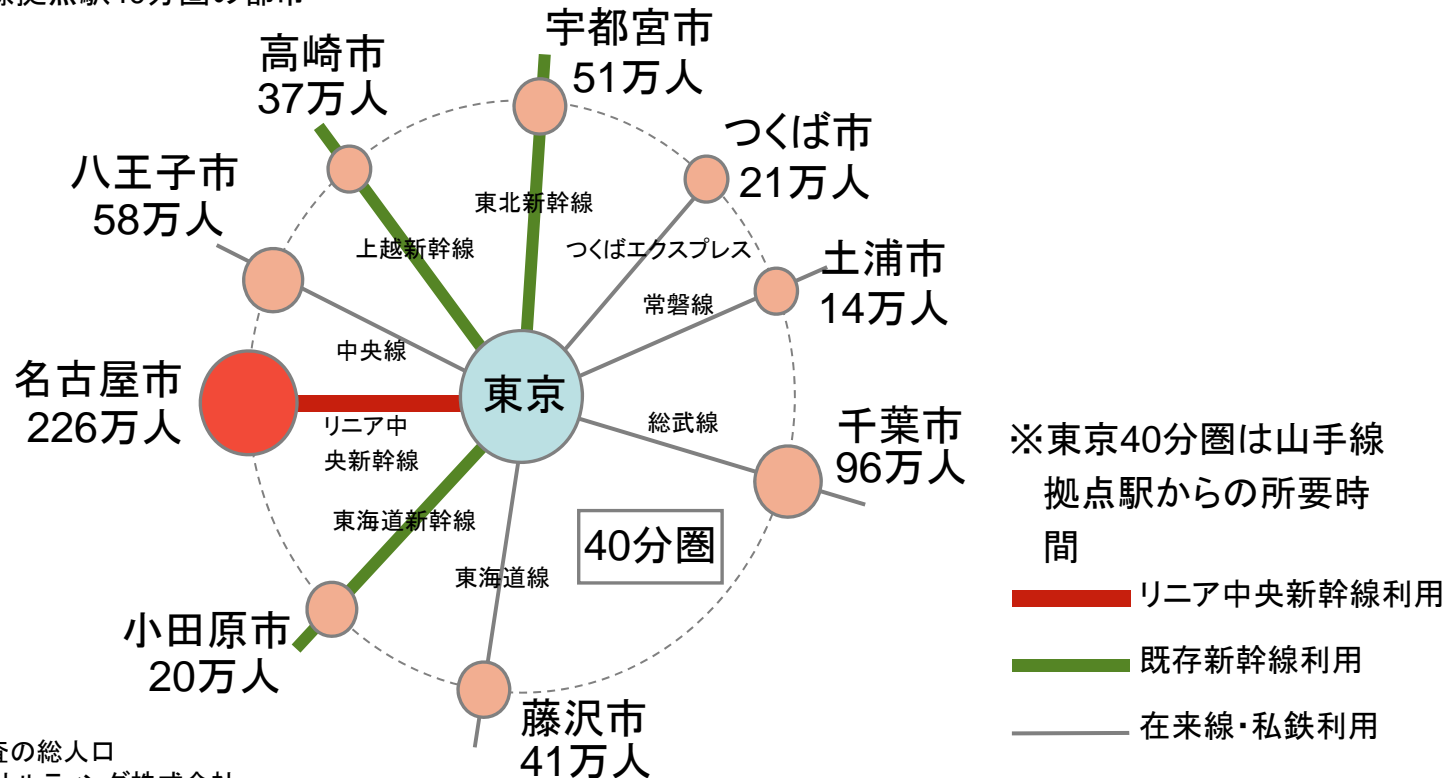
出典: H13年事業所・企業統計(全事業所数)

# 東京から見た名古屋都市圏

- 東京駅および山手線拠点駅からの40分圏には、首都圏において特徴的な役割を担う拠点都市が分布
- 既存の新幹線で約40分で結ばれる都市からは、多くの新幹線通勤者が東京を往来
- こうした時間同心円上に名古屋市が立地することから、首都圏との関係において、名古屋市は新しい役割を担うことが可能な立地に

## 東京からみた名古屋都市圏の時間的位置(東京40分圏)

■ 山手線拠点駅40分圏の都市



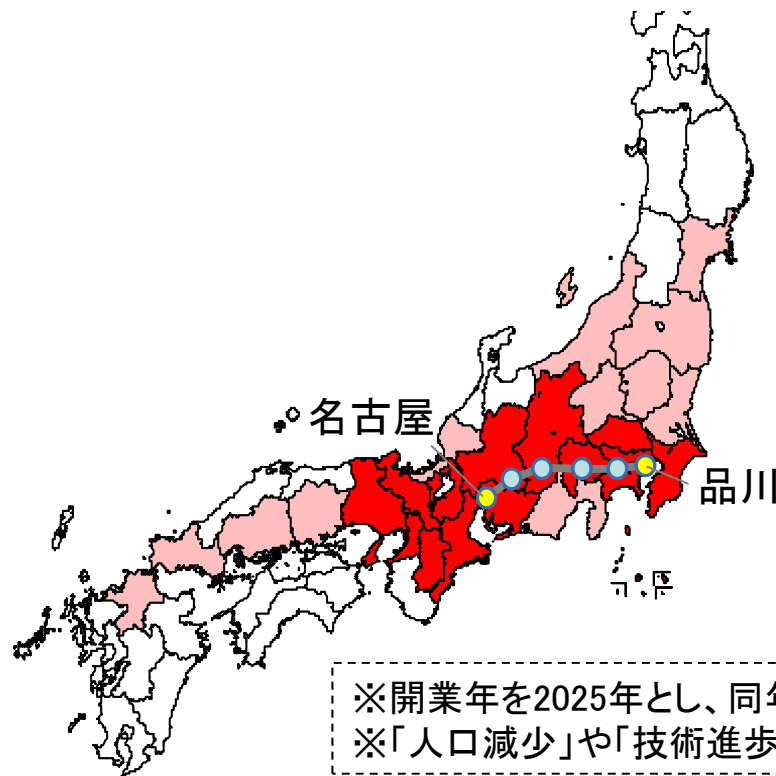
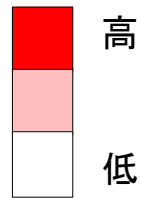
出典: 数字は平成22年国勢調査の総人口  
作成: 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社



# 日本経済全体の活力増進の可能性

- リニアの開業に伴う時間短縮は、多様な経済活動の効率を高め、これによる経済効果が発現され、50年便益は10.7兆円に上るものと見込まれる
- 便益の帰着地域は、リニア沿線地域を中心に分布するが、ネットワーク効果により国土の広域的な範囲に及ぶ
- 三大都市圏を中心に我が国経済の活力が増進していくことが期待される

## 品川～名古屋間の整備による経済効果(便益)の拡がり



総便益

約10.7兆円

※開業年を2025年とし、同年を基準年として50年間の効果を算定。  
※「人口減少」や「技術進歩」を考慮した試算結果。

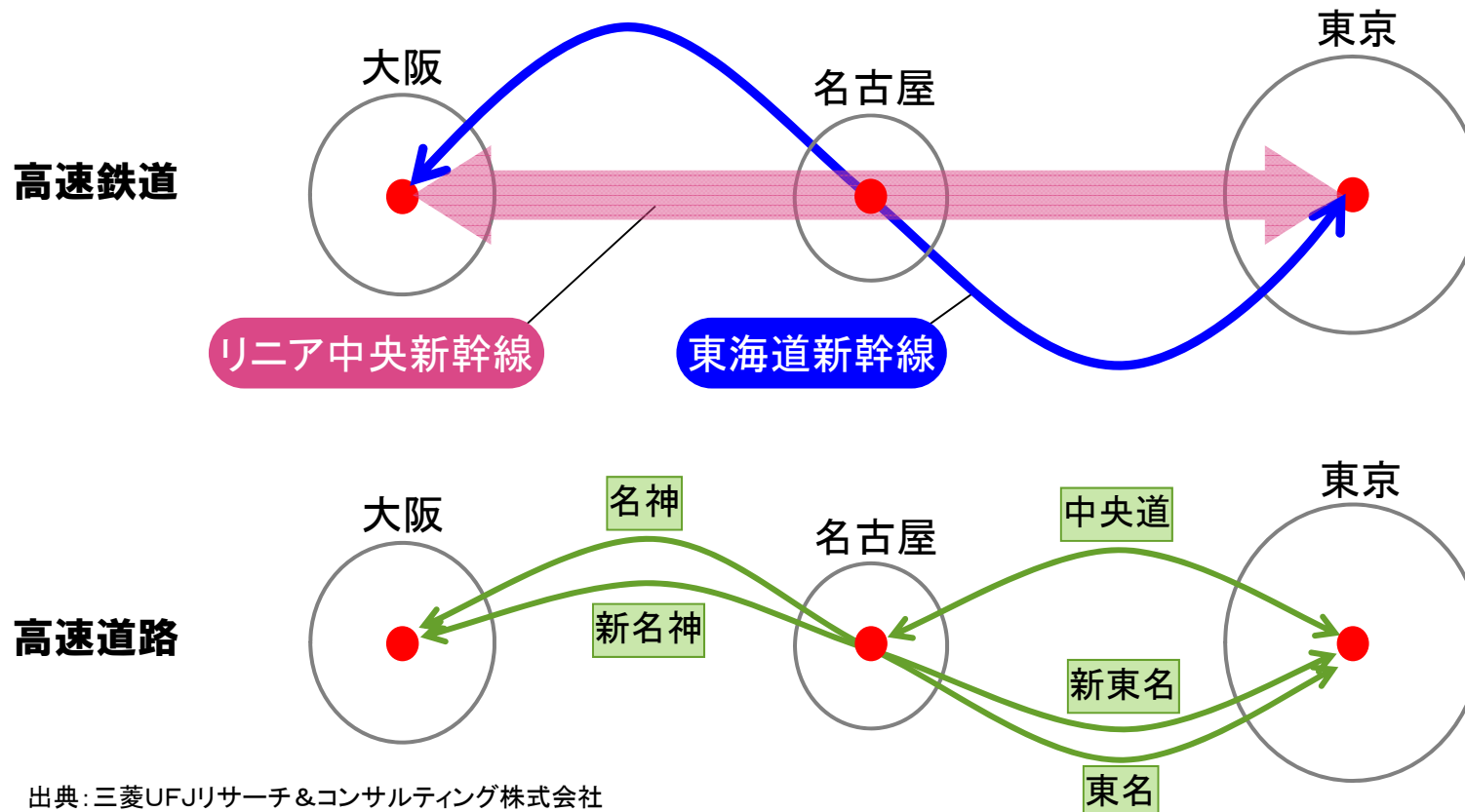
※シミュレーション結果(品川～名古屋開通)

出典:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

# 災害に強い国土の構築

- 我が国の社会経済を支える大動脈が途絶しないネットワークの構築が必須
- 現在、高速道路は2重化・3重化が進みつつある
- リニア中央新幹線の整備により、高速鉄道も2重化されリダンダンシーが向上
- 中部地域は、名古屋を中心にネットワークの重層化の起点となり、我が国国土の要衝に

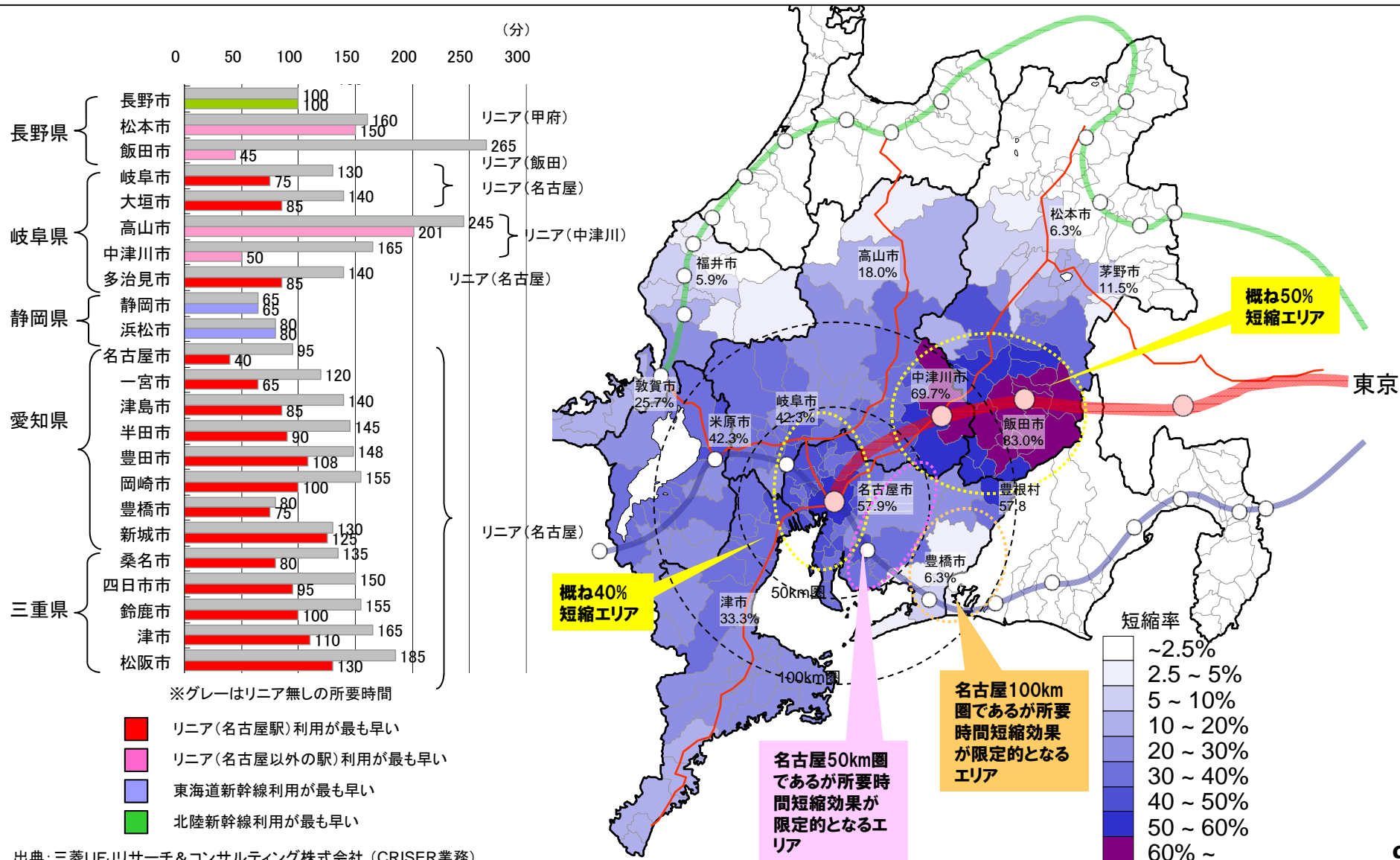
## 国土の東西交通の「要」となる名古屋



出典: 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

# 中部地域に広がる東京との時間短縮

- 東京との時間短縮は、リニア駅整備地域を中心に中部地域に広域的に広がる
- 但し、時間短縮率が大きい地域(40~50%)と小さい地域に分布し、その濃淡も顕在化



# リニア開業に伴う東京→名古屋の鉄道2時間圏の広がり

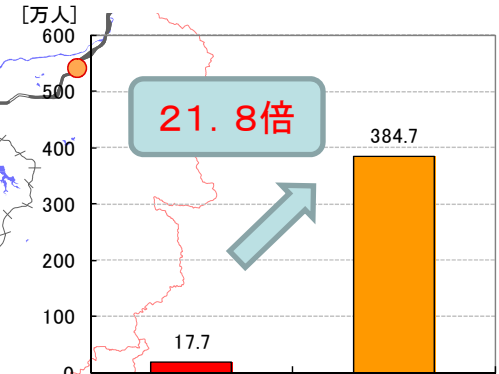
## <現状:名古屋駅10分到達可能圏域を図化>

- ・東京～名古屋 100分  
※新幹線駅からの乗換時間 10分考慮

## <リニア実現時:名古屋駅65分到達可能圏域を図化>

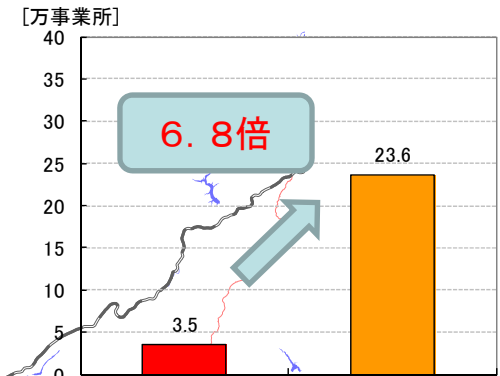
- ・東京～名古屋 40分  
※リニア駅からの乗換時間 15分考慮(大深度配慮)
- 駅から徒歩10分圏域は検索対象とする。

## (1)到達圏域内人口の変化

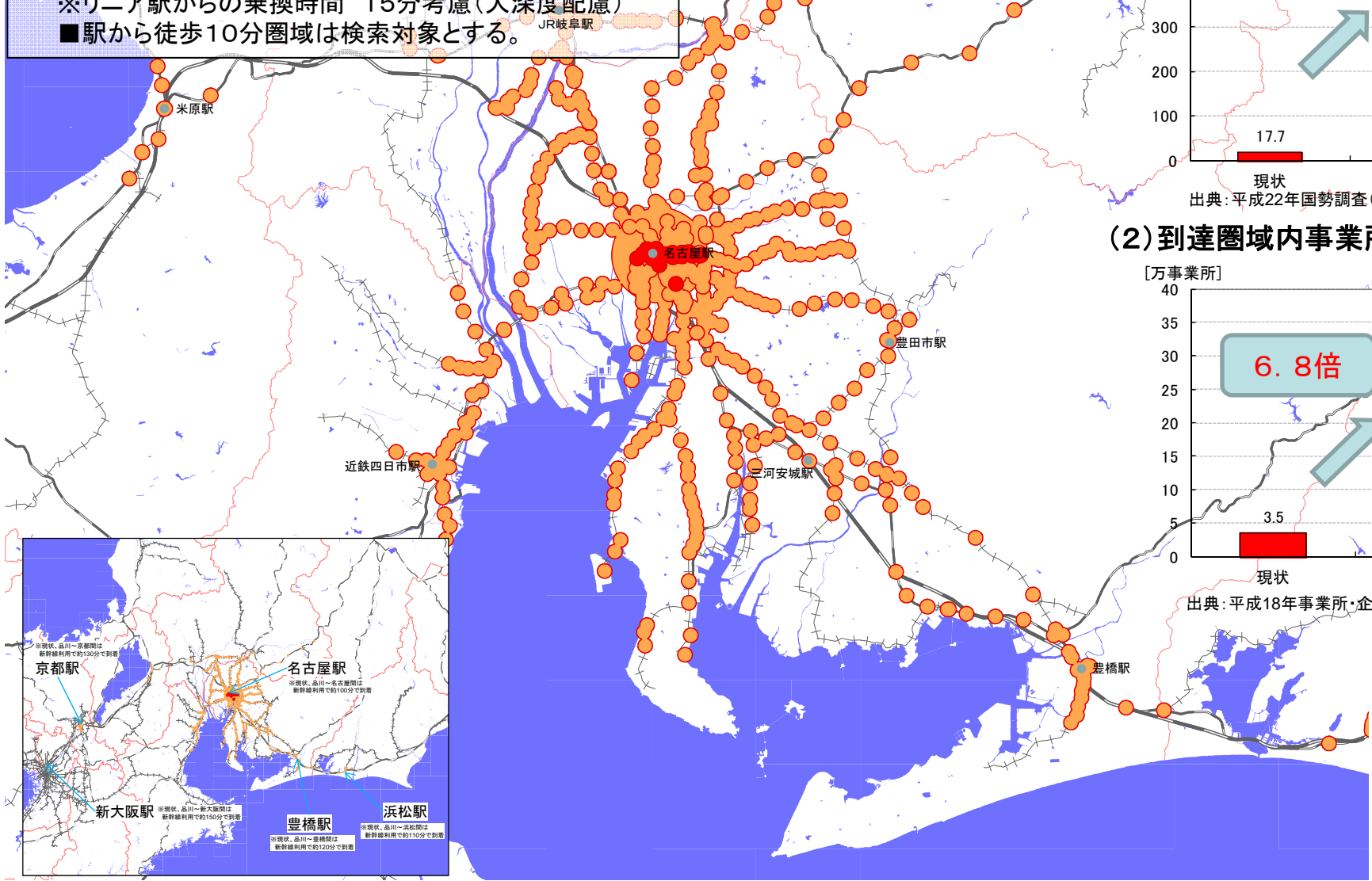


出典:平成22年国勢調査(総務省)

## (2)到達圏域内事業所数の変化

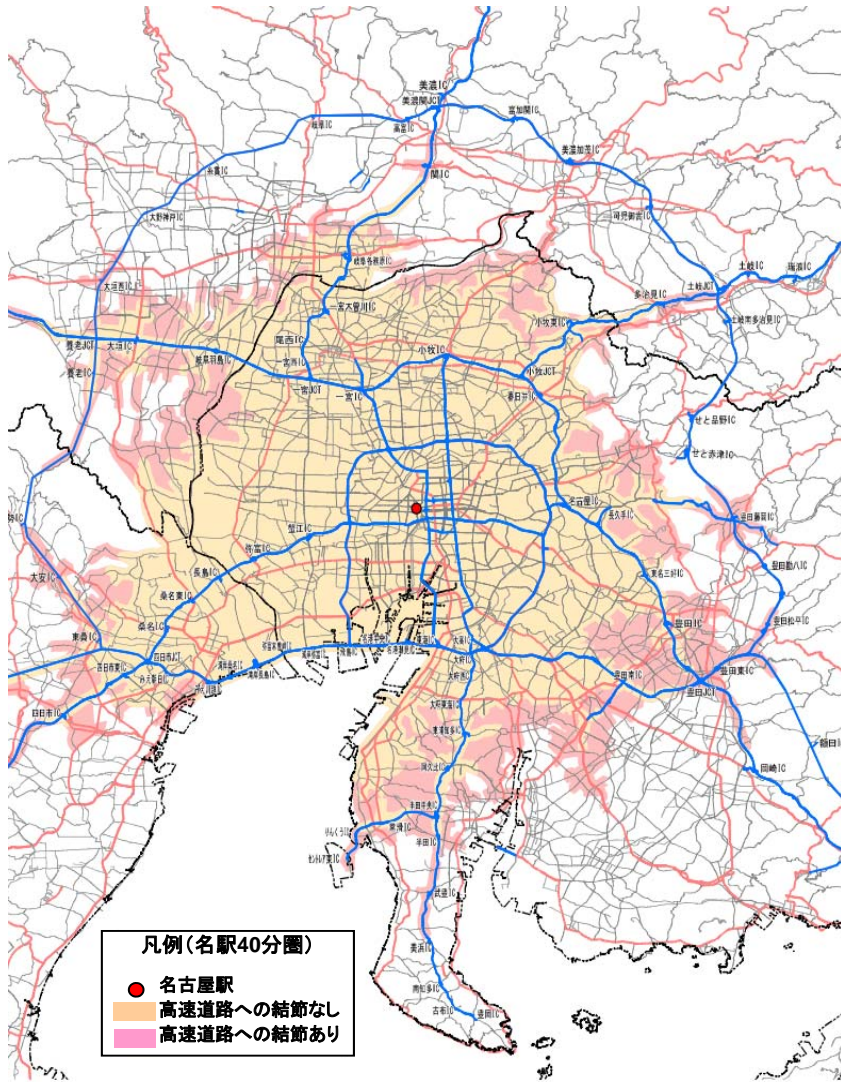


出典:平成18年事業所・企業統計(総務省)

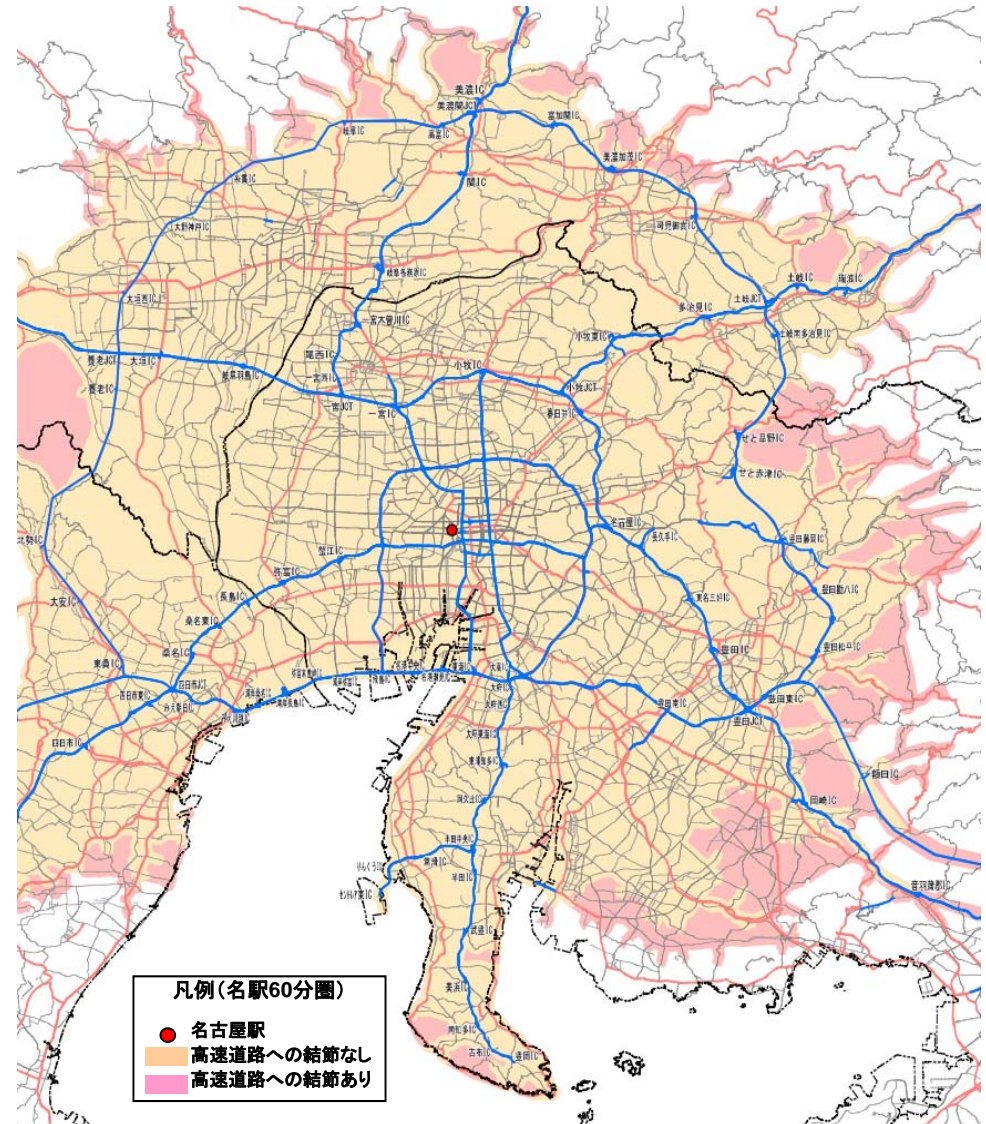


# リニア名古屋駅へ高速道路が結節した場合の時間距離の変化

【高速道路への結節の有無による40分圏】

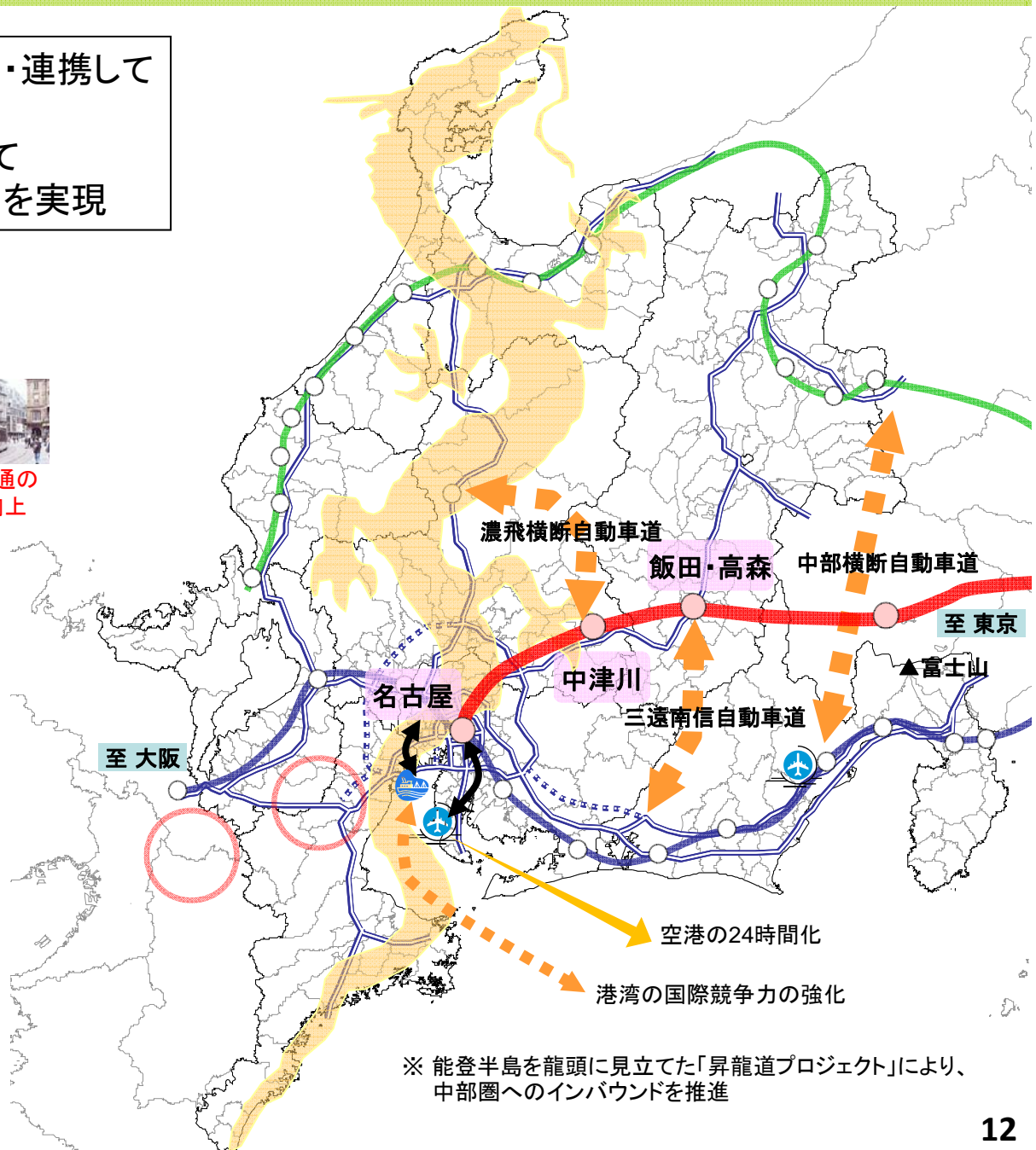
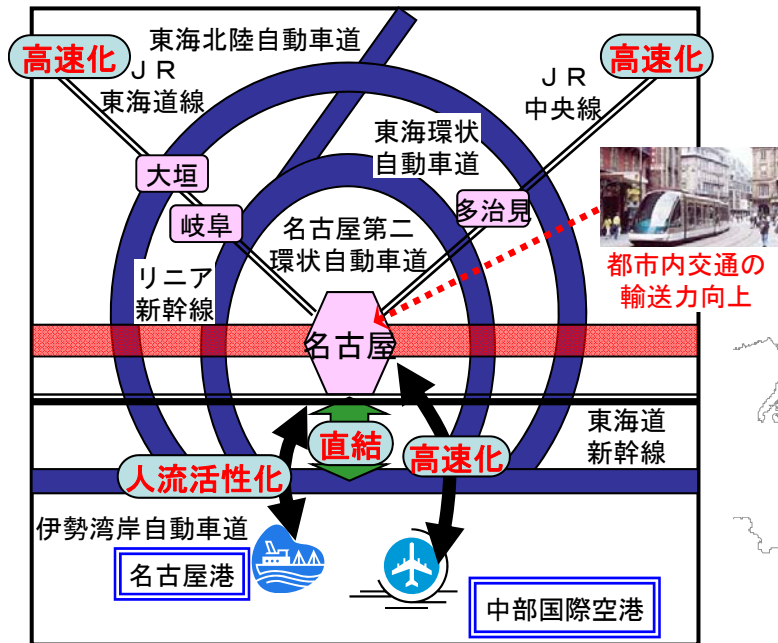


【高速道路への結節の有無による60分圏】



# リニア中央新幹線の開業を見据えた中部地方のイメージ

- リニアと多モードの交通基盤を結節・連携して  
広域流動の円滑化を推進
- 内外からの活発な交流増進を通して  
「まんなかで日本をリードする中部」を実現



※ 能登半島を龍頭に見立てた「昇龍道プロジェクト」により、中部圏へのインバウンドを推進

## 新まんなかビジョンを取り巻く関連計画等

- ・国土強靱化政策大綱の概要
- ・国土のグランドデザインの概要
- ・昇龍道プロジェクトの展開
- ・東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議

# 国土強靱化政策大綱の概要



# 国土強靱化政策大綱の概要

## 基本理念

「強さ」と「しなやかさ」を持った安全・安心な国土・地域・経済社会の構築に向けた「国土の強靱化」(ナショナル・レジリエンス)を推進する

### 【基本目標】

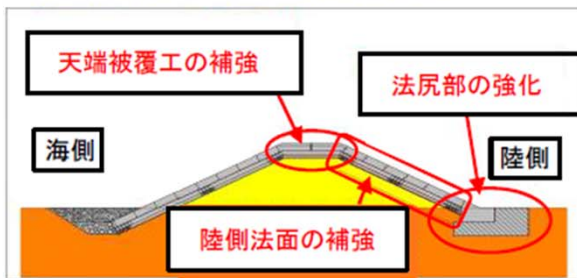
- ・人命の保護が最大限図られること
- ・国家および社会の重要な機能が致命的な障害を受けずに維持されること
- ・国民の財産及び公共施設に係る被害の最小化
- ・迅速な復旧・復興

## 起こってはならない事態と回避するプログラム(例)

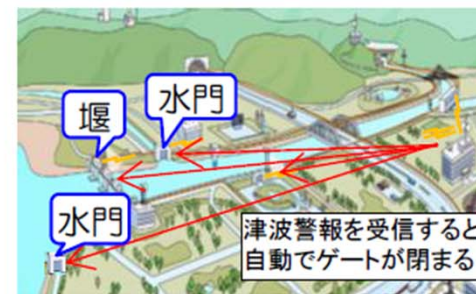
- ▼サプライチェーンの寸断等による企業の生産力低下による国際競争力の低下  
⇒代替性確保ネットワーク整備等の防災・減災対策



- ▼広域にわたる大規模津波等による多数の死者の発生  
⇒大規模津波等に備えた対策の推進

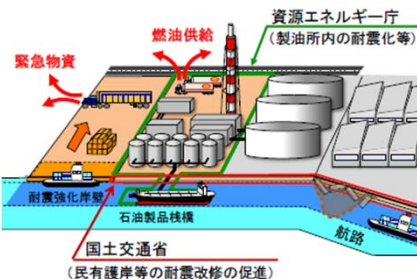


粘り強い構造の海岸堤防



水門の自動化

- ▼社会経済活動、サプライチェーンの維持に必要なエネルギー供給の停止  
⇒災害時のエネルギー供給確保



- ▼大都市での建物・交通施設等の複合的・大規模倒壊や住宅密集地における火災による死傷者の発生  
⇒密集住宅市街地における総合的な対策

### ○耐震改修イメージ

#### <戸建住宅>

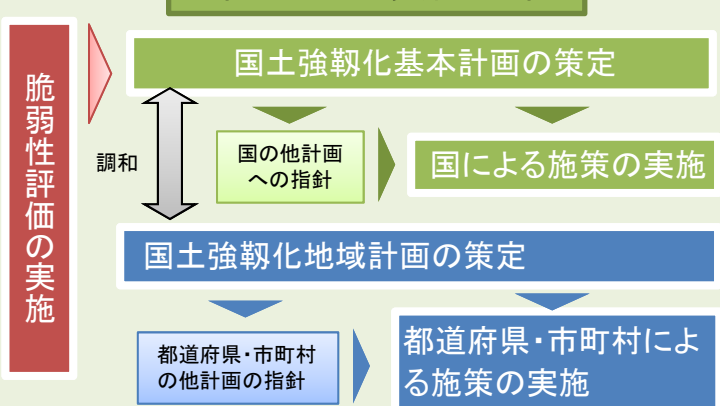
新築による補強  
構造用合板による補強  
筋交いのタスキ掛け



#### <建築物>



## 国・地方の実施方針



# 国土のグランドデザインの概要

# 新たな国土のグランドデザインの策定

国土交通省重点政策  
(平成25年8月 国土交通省)より

国土形成計画(全国計画)策定から5年が経過し、我が国の国土を取り巻く状況は大きく変わってきていることから、国土をめぐる将来への不安感・危機感を払拭し、2050年頃までの長期を見据え、持続的な成長への期待を確信できる国土・地域づくりの理念・哲学等を示す新たな「国土のグランドデザイン」を平成26年春までに策定するとともに、それを踏まえた課題に具体的に対応するための戦略づくりを進める。

## (国土をめぐる長期的な変化)

人口の減少・地域的偏在、高齢化、巨大災害の切迫、地球環境問題(気候変動)、環境・エネルギー制約の高まり 等

## (前提とすべき現実)

グローバル化、国土の脆弱性、インフラの老朽化、国・地方の厳しい財政状況 等

## これらを踏まえ、新たな「国土のグランドデザイン」を策定

国土・地域づくりの「理念・哲学(どのような国土にしたいのか)」と「目標」を示し、その実現のための施策の方向性を提示

<キーワード:ゆたかな社会、安全・安心、次世代への継承、ふるさとの維持 等>

## <グランドデザインの策定に向けて想定される検討事項>

### 1. 都市・地域の拠点づくりと一体となった地域の形成

人口の減少・地域的偏在、高齢化等が進行する中、財政制約、限られた資源等の制約下においても、地域の活力を維持・増進するとともに、必要なサービスを受けられるようにするため、既存集積の効率的活用を基本とした都市・地域における拠点づくりと周辺エリアと一体となった重層的な地域の形成が必要

### 2. 経済成長を実現する国土・地域づくり

激化するグローバル競争に勝ち抜き、経済成長を実現するため、産業基盤の強化や都市の競争力を更に高める国土・地域づくりが必要

### 3. ふるさとを守る効果的な国土管理

人口の減少・地域的偏在、高齢化等が進行する中、国土管理の担い手の減少によるふるさとの荒廃に対応するため、より多様な主体、より効率的な資源投入による国土管理が必要

### 4. 巨大災害等に対し強くてしなやかな国土づくり

災害に脆弱な国土に対する危機意識を持って、首都直下地震、南海トラフ巨大地震等巨大災害への備えについて、国や地域の経済社会システム等を含めた国土全体としての総合的な対応が必要

## <横断的な検討の視点>多様な地域を支える主体とライフスタイル

(キーワード:民間の活用、高齢者・女性が最大の資源、都市と農山漁村の交流 等)

# 昇龍道プロジェクトの展開

# 昇龍道プロジェクトの展開

## 昇龍道プロジェクトとは

能登半島を龍頭に見立て、中部・北陸圏の観光エリアを龍をモチーフとして「昇龍道」と命名し、中華圏及び東南アジアを対象に昇龍道ブランドとしてプロモートするプロジェクト

〈対象国・地域：中国、台湾、香港、シンガポール、タイ、ベトナム、マレーシア、インドネシア〉

## 昇龍道ミッションとして地域一体となったプロモーション

- ・平成24年7月25～28日 中国市場向け：上海・杭州
- ・平成25年5月13～15日 台湾市場向け：台北
- ・平成26年2月22～26日 タイ市場向け

※25年12月に中部国際空港において、タイからの訪日旅行者(233人)を対象に観光ルートや宿泊地及び情報入手方法等の実態把握調査を実施

## アクション・プランの策定 (H25.9.26)

- ① 受入環境水準の向上等
- ② 一貫したプロモーション
- ③ 市場への戦略的アプローチ
- ④ 昇龍道プロジェクトの活動 内容の発信
- ⑤ 関係省庁との連携



## 今後の戦略 ー団体旅行から個人旅行に移行している状況を踏まえ、アクション・プランに基づく具体的施策を展開ー

### ① Wi-Fi 使用環境の拡充・導入促進

- ・自治体向けに無料Wi-Fiサービス提供の仕組みを調査し、情報提供を実施。
- ・ホテル、旅館、飲食店等向けに既存有線LANを活用したWi-Fi導入等の情報提供を行う。(いずれも東海総合通信局と協同で実施)

### ② ムスリム対応

- ・食泊施設を対象に食事、礼拝、言語等にかかる受入基準を提案し、環境整備を促進するとともに整備実施済み施設を中心にモデルコースの策定、モニターツアーを実施予定。(ムスリム分科会開催予定)

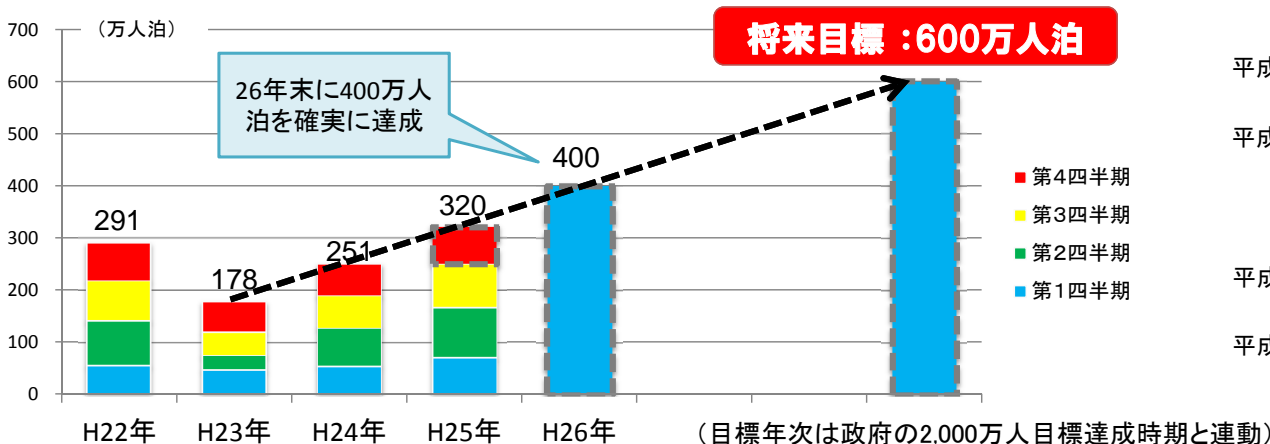
### ③ 交通利便性の向上

- ・昇龍道における割引切符、周遊切符等の商品化等を促進 (交通利便性分科会開催予定)

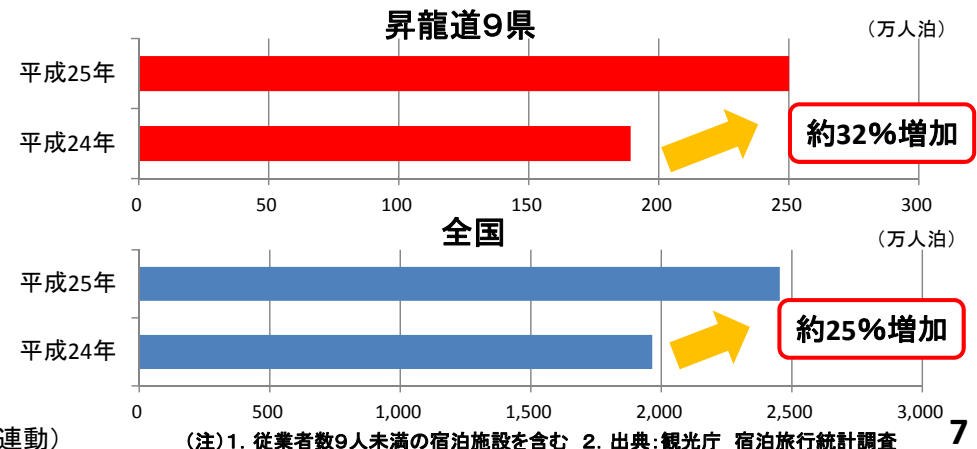
### ④ エアアジアXの就航対応

- ・3月17日マレーシア～セントレア間の就航に向けてプロモーションを強化

## 昇龍道プロジェクトの新たな目標



## 外国人宿泊者数 全国との比較(1月～9月)



# 東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議

# 東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議

## 東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議

・3連動地震等の巨大地震への対策について、中部圏の産官学の関係者が一体となって中部圏地震防災基本戦略を策定する。

### 東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議

第1回 平成23年10月4日(設立)

事務局: 中部地方整備局



- 座長(奥野信宏 中京大学教授)
- ◆ 学識経験者(12名)
- 国の地方支分部局(32機関)
- 地方公共団体(13機関)
- 経済団体(4機関)
- ライフライン関係団体等(53機関)
- 報道関係機関(10機関)

合計125構成員

第2回 平成23年12月26日

第3回 平成24年11月5日

中部圏地震防災基本戦略【最終とりまとめ】  
平成24年11月5日公表

第4回 平成25年5月24日

・『優先的に取り組む連携課題(10課題)』の成果、  
今後の課題・予定について各機関より報告  
・平成25年度の活動計画を決定

#### 平成25年度活動計画のポイント

- ・『優先的に取り組む連携課題(10課題)』を継続して推進
- ・南海トラフ巨大地震対策中部ブロック協議会広域連携防災訓練の実施
- ・『優先的に取り組む連携課題(10課題)』の相互連携の推進
- ・防災教育における新たな取り組み ・UTMグリッド地図の利用促進
- ・民間企業・NPO等との連携推進 ・救援・救助に関する関係機関の連携

南海トラフ巨大地震対策計画  
中間とりまとめの地方計画策定

## 優先的に取り組む連携課題

基本戦略の多くの課題の中で、各機関の緊密な連携なくしては達成が難しく、かつ緊急に対処すべき課題を「**優先的に取り組む連携課題**」として選定し基本戦略を推進。 ※( )内は幹事機関

1. 災害に強いものづくり中部の構築(中部経済産業局)
2. 災害に強い物流システムの構築(中部運輸局)
3. 災害に強いまちづくり(中部地方整備局)
4. 情報伝達の多層化・充実と情報共有の強化(東海総合通信局)
5. 防災意識改革と防災教育の推進(三重県)
6. 確実な避難を達成するための各種施策の推進(静岡県)
7. 防災拠点のネットワーク形成に向けた検討(中部地方整備局)
8. 道路啓開・航路啓開等のオペレーション計画の策定(中部地方整備局)
9. 災害廃棄物処理のための広域的連携体制の整備(中部地方環境事務所)
10. 関係機関相互の連携による防災訓練の実施(中部管区警察局)

## 中部圏地震防災基本戦略のポイント

「最終とりまとめ」では、以下の内容を盛り込んだ。

1. **生活や経済活動への影響を防止・低減する施策を推進すること**
2. **優先的に取り組む連携課題についてアクションプランを策定し、進捗状況を定期的にフォローアップするとともに、取組の成果を共有し、施策を推進すること**
3. **中央防災会議が策定する「南海トラフ巨大地震対策大綱(仮称)」等に基本戦略に盛り込まれた優先的に取り組む連携課題の成果等が反映されるよう働きかけること**
4. **中部圏戦略会議の構成機関等が連携し、広域的・実践的な地震・津波防災訓練(防災-TEC)を毎年開催すること**